北支



現地編輯

THE NORTH CHINA

4 2



杏

An Apricot



海棠

Aronia (Pirus Spectabilis)

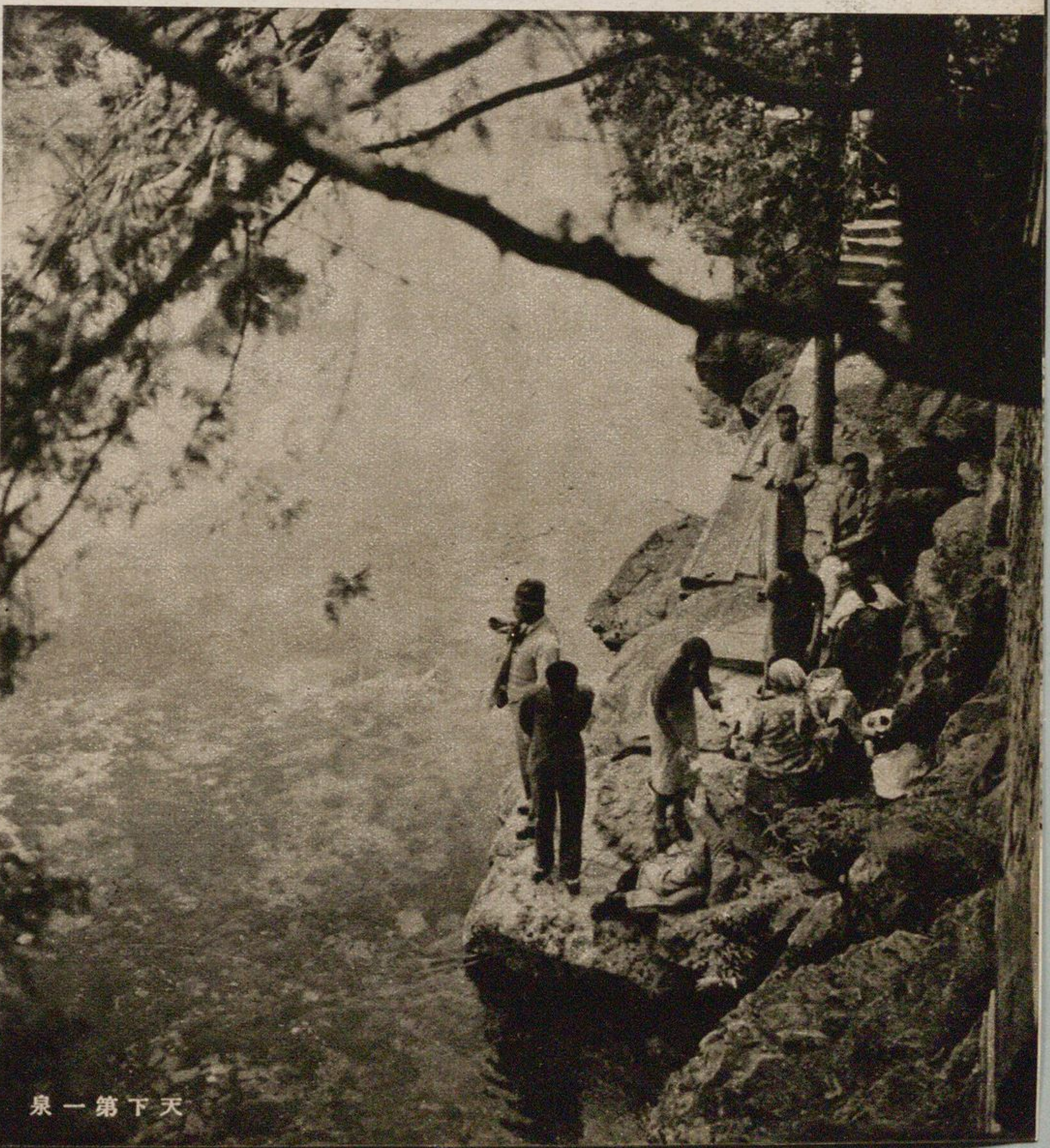
玉泉山

北京城外西北約四邦里にあり、萬壽山とともに西郊の名所。金の章宗が築いた行宮「芙蓉殿」の遺址で、元、明二朝の帝后も時に遊幸したと傳へられる。清朝に至つて離宮が造營され「靜明園」と稱した

山麓の湧水は豐富、甘冽清爽、帝室の御用飲料水となり毎日車で紫禁城に運ばれたといふ。乾隆帝は水の清冽をいたく賞でて「天下第一泉」に勅定した北京の水源で現在の城市發生はこの水の賜とさへ說かれてゐる

▽

玉泉山は北京西郊の連山（西山と總稱される）の一で、大行山脈の支脈に當る。同山脈の特産に栝（クワツ、俗名自皮松又は白虎松、學名PINAS BUNGEUNA）がある。三葉松で發芽後二十年を經て樹皮より臘白の分泌物を出し幹、枝が白色になる。玉泉山には乾隆帝が「古栝行」の詩を吟じた樹齢八百年を經たものがある。常綠の葉と灰白の樹枝の對照は美しく、觀賞用に珍重される



天下第一泉



玉寶塔を見る





よく耕された山西の黄土層

The Sh hchiachuang-Taiyuan Line through the Lense

躍進する
石太線

石太線は京漢と同蒲の兩線を結ぶ鐵道である。石家莊と太原北站の間、幹線二四九キロ、これに支線五九キロを加へて延長粁程三〇八キロである。これを地形的に見ると、黄土高原の北邊を縫ふが如くに西走する京包線と殆ど平行に、黄土高原の心臟部に通ずる動脈のやうな形を作つてゐる。だから石太線によつて山西太原に旅する者は、天下の名勝娘子關の景觀もさることながら、車窓を走り去る黄土高原の特異な様相に目を見張るに相違ない

この黄土の高原は、中央アジアから幾千年もの間に季節風によつて持運ばれた塵埃から出來たものである。高原は時に數十呎の垂直の壁を作つてゐる。

これは黄土の垂直な劈開性と微粒を結合する表面膠着性とから作られる一つの特色である。道路は屢々垂直に頭上に聳え立つ壁の間を細々とつゞいてゐる。非常に輕い黄土の微粒は、荷車や駄馬のあとに砂煙を捲き上げる。これを見ると、黄塵萬丈といふ言葉の持つ眞實性がよく判る

黄土高原の農民の多くは、黄土の崖に家を掘つて穴居生活を營んでゐる。黄土は軟かく切り易いからである。垂直な絶壁の側面に掘りあけられた洞窟の家は、夏涼しく冬暖かだ。絶壁の上方は大抵彼等の耕作地となつてゐる。黄土はかくして住と食とを與へる二重の役割を果してゐる。この地方は雨が少く、灌漑の便にも惠まれてゐない。從つて乾燥した環境に適應した小麥、粟高粱が主要な農作物である。その他に棉花と煙草を産する。

かうした特色のある地形の間を西走する石太線は、もと石炭の寶庫として支那のペンシルバニヤと呼ばれる山西開發のため敷設せられたものだ。露、佛、白三國共同出資の四千萬フランによつて、一九〇三年起工、一九〇七年に竣工した。一時その經營は佛國の手によつて行はれたが、一九三二年支那側の借款償還によつて國有鐵道に編入された





徴水驛前の錦河風景





陽泉炭礦坑外

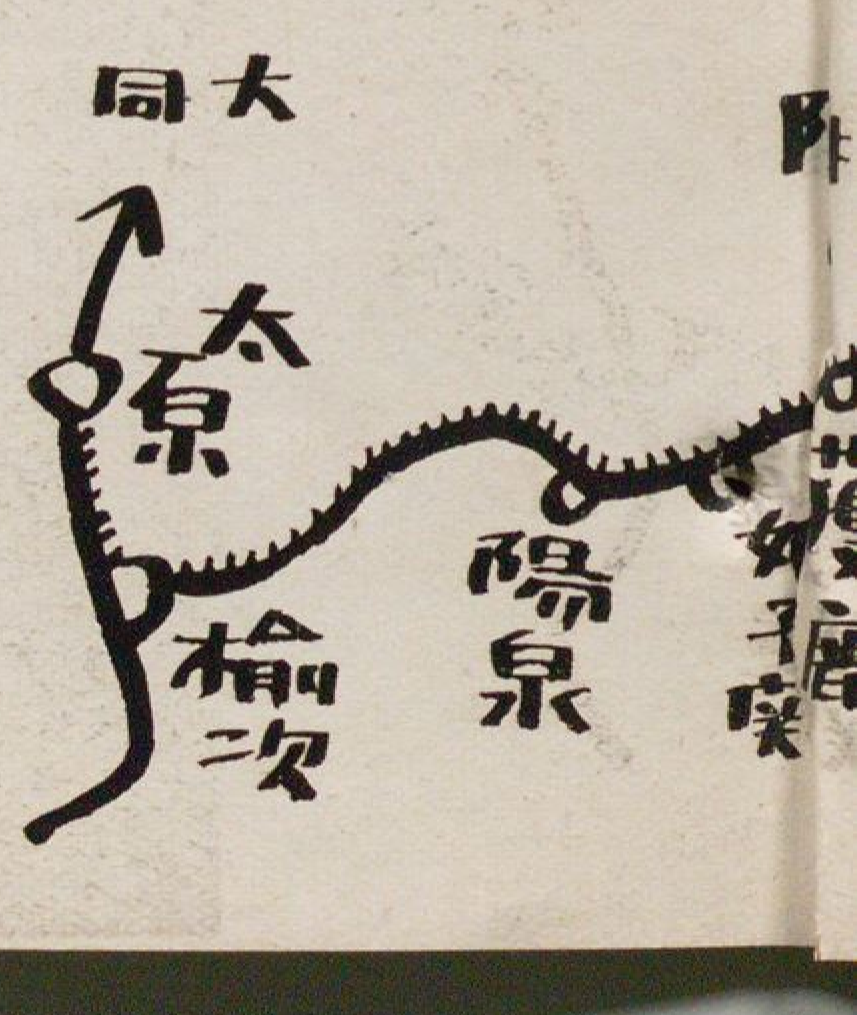
躍進する石太線



娘子關附近

事變後、敵軍が破壞敗走の後を皇軍の手によつて復舊、今日華北交通會社によつて運營されてゐる。この鐵道はつひ最近まで正太線と呼ばれ、支那には珍らしい一米ゲージの狹軌鐵道であつたが、輸送力の增强を目ざす華北交通の手によつて昨年十月準軌（一メートル四三五）に改軌された

石太沿線には井陘（河北省西端）、陽泉等の炭礦がある。井陘の埋藏量二億二千萬トン餘、陽泉のそれは八千萬トン。これ等は五百億或は八百億と云はれる山西炭の蚊の涙にも當らぬが、鐵道の便に惠まれて、躍進的開發を示してゐる。この外太原西山、汾臨地區の石炭、運城の鹽等の開發の如きは、矢張この石太線の輸送力擴充に俟たなければならない。如何に多く掘り、如何に多く運ぶかゞ、新建設今後の問題である



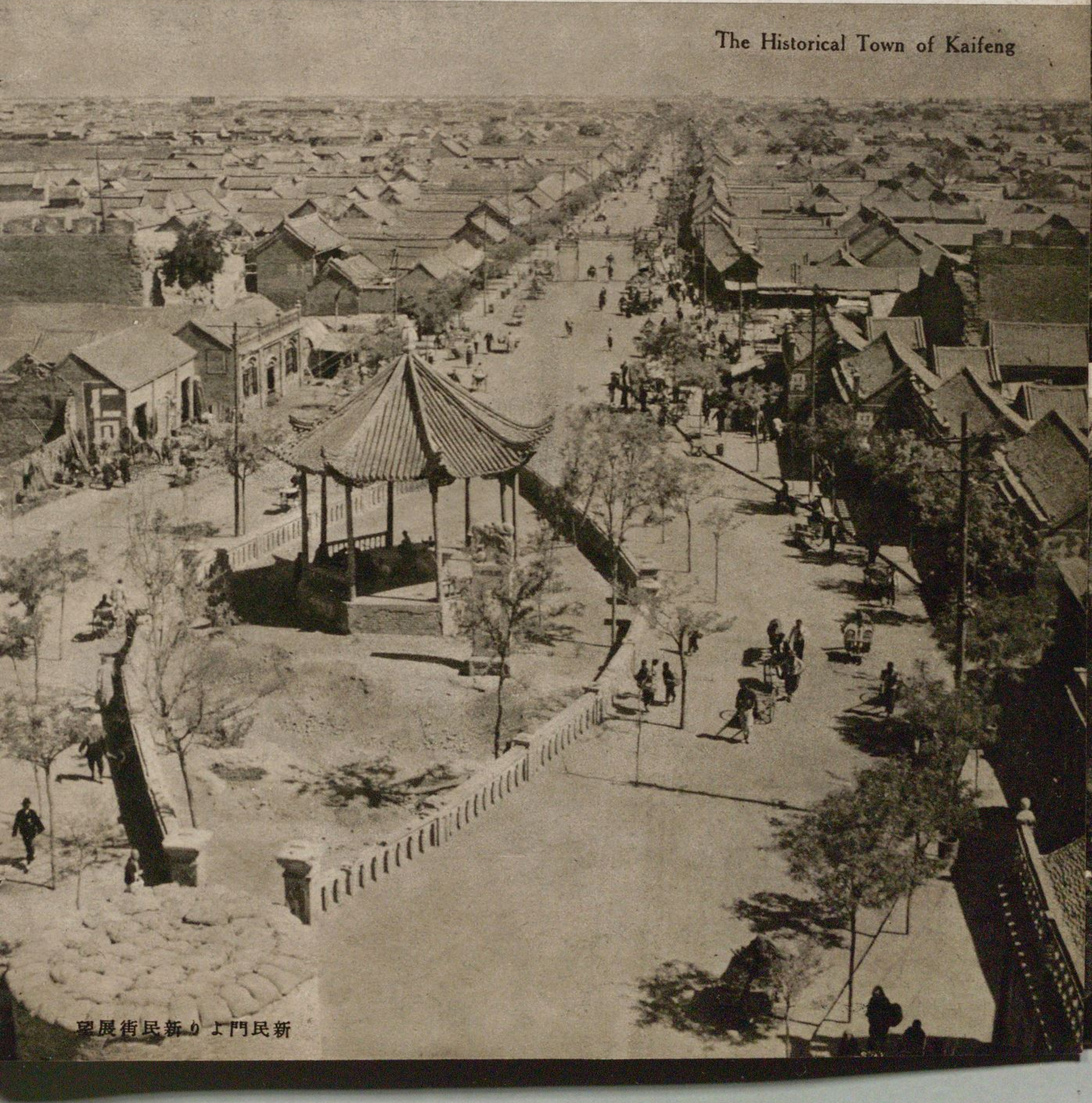
開封

開封は河南の省城で、古來中原の首都として著名。今日なほ汴梁、汴京または東京などの歴史的名稱で呼ばれてゐる。有史以來黃河の氾濫による大洪水を被ること十五回、大火によつて壞滅に瀕すること六度、天災のみならず中原を狙ふ支那南北各民族の侵入により蹂躪を受くること前後十一回に及ぶ。昨年蔣軍が皇軍の急追擊を阻むべく天人共に許さゞる暴擧、黃河堤防の決潰を行つたが、我方の治水工作によつて全きを得たことは記憶に新しい。市街は大黃河の南岸約五キロ、一望千里の平原に立つが、黃河の河床より三メートルも低いため周圍に支那各地に比を見ない高層、堅固な城壁をめぐらしてゐる

人口二十五萬。附近物資を集散し商業は盛況を呈する。物產は絹織物(汴綢、綢緞)綿布。城內外に名所舊蹟が多く、宋時代の鐵塔、陶器塔、女眞文字の碑などがあるほか、支那古代美術の代表的遺物を保存してゐる

中原の要衝として經濟、交通、觀光上に將來を期待されてゐる

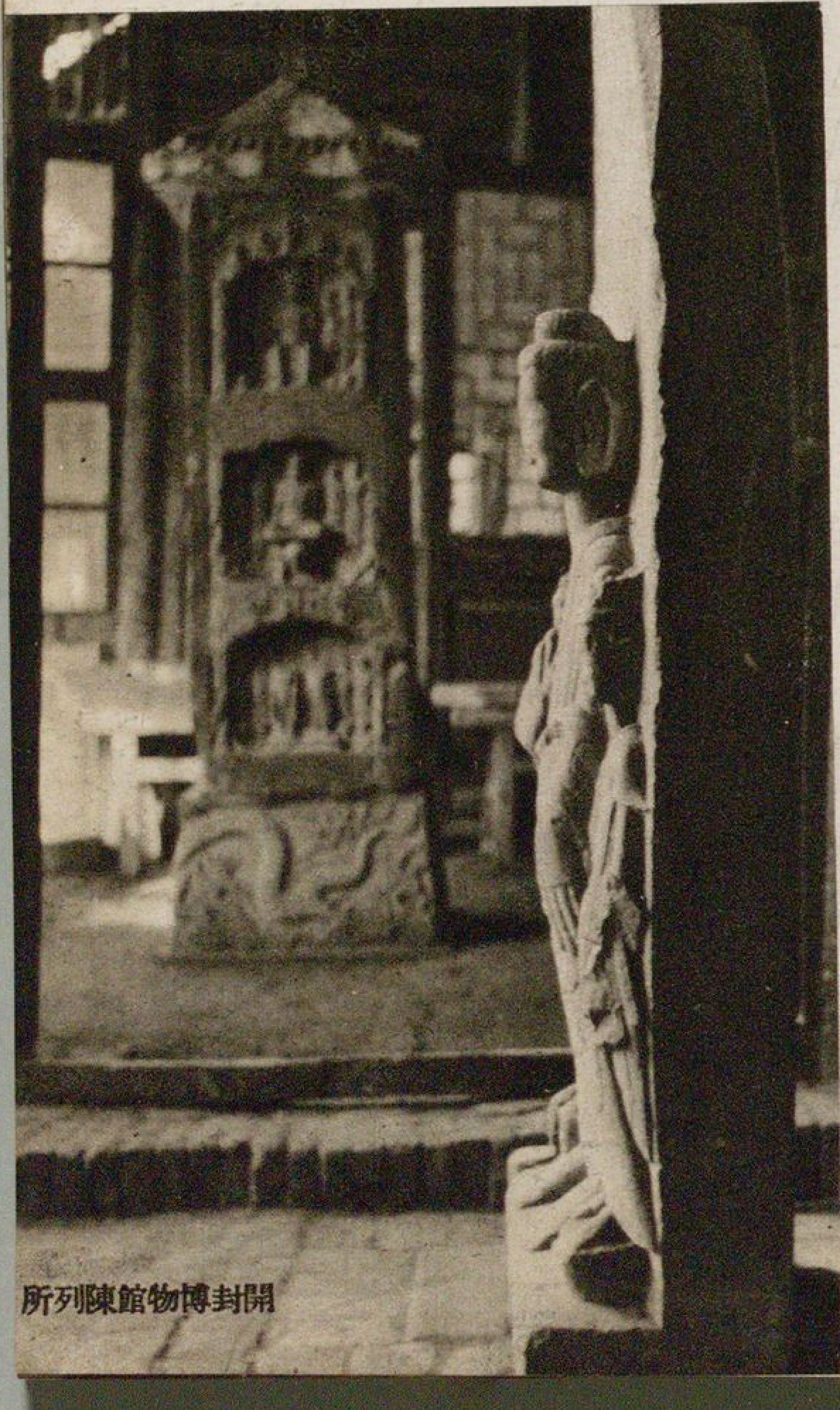
The Historical Town of Kaifeng



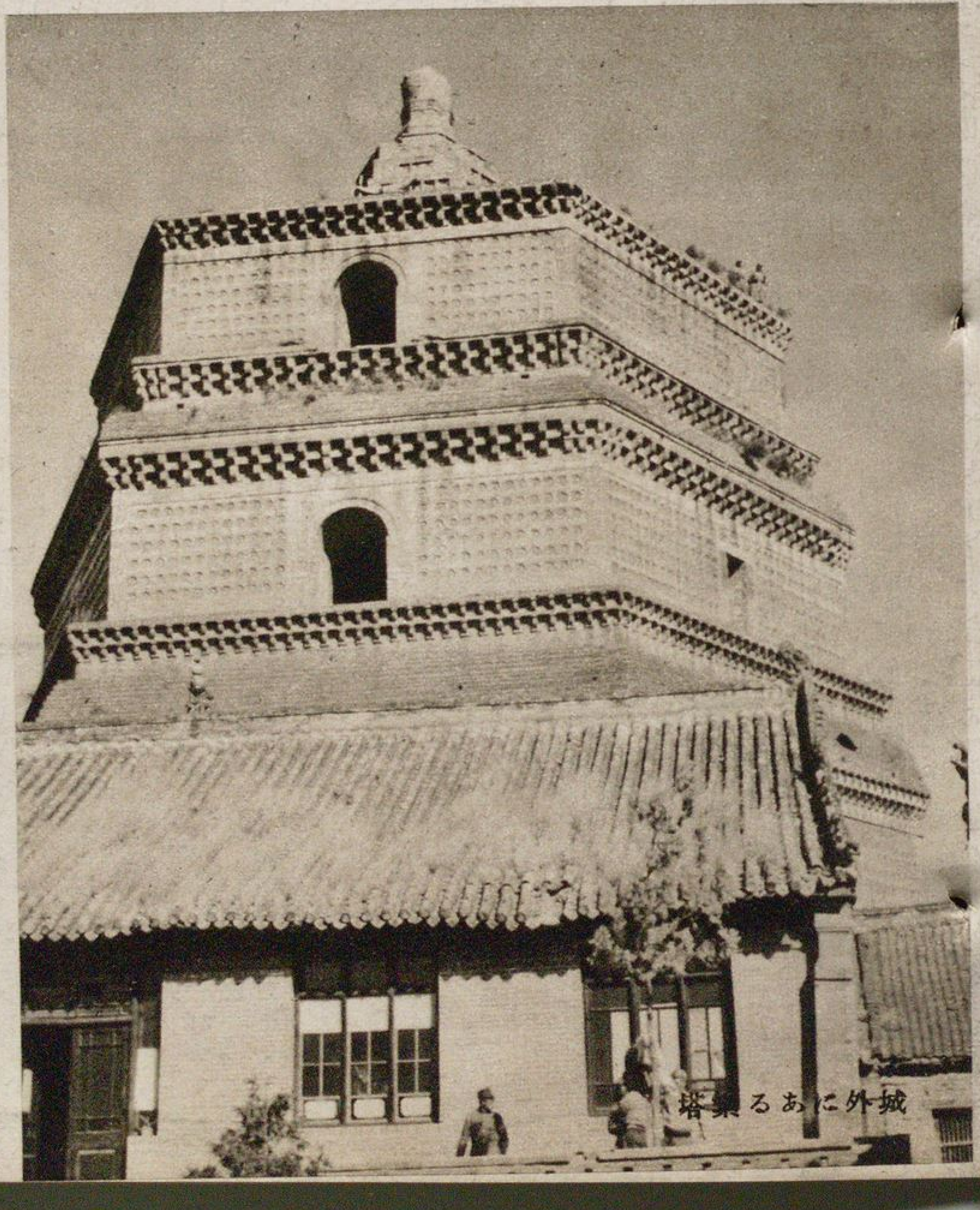
新民門より新民街展望



城內湖水風景



開封博物館陳列所



城外にある繁塔



埋立地に城壁の土を運ぶ



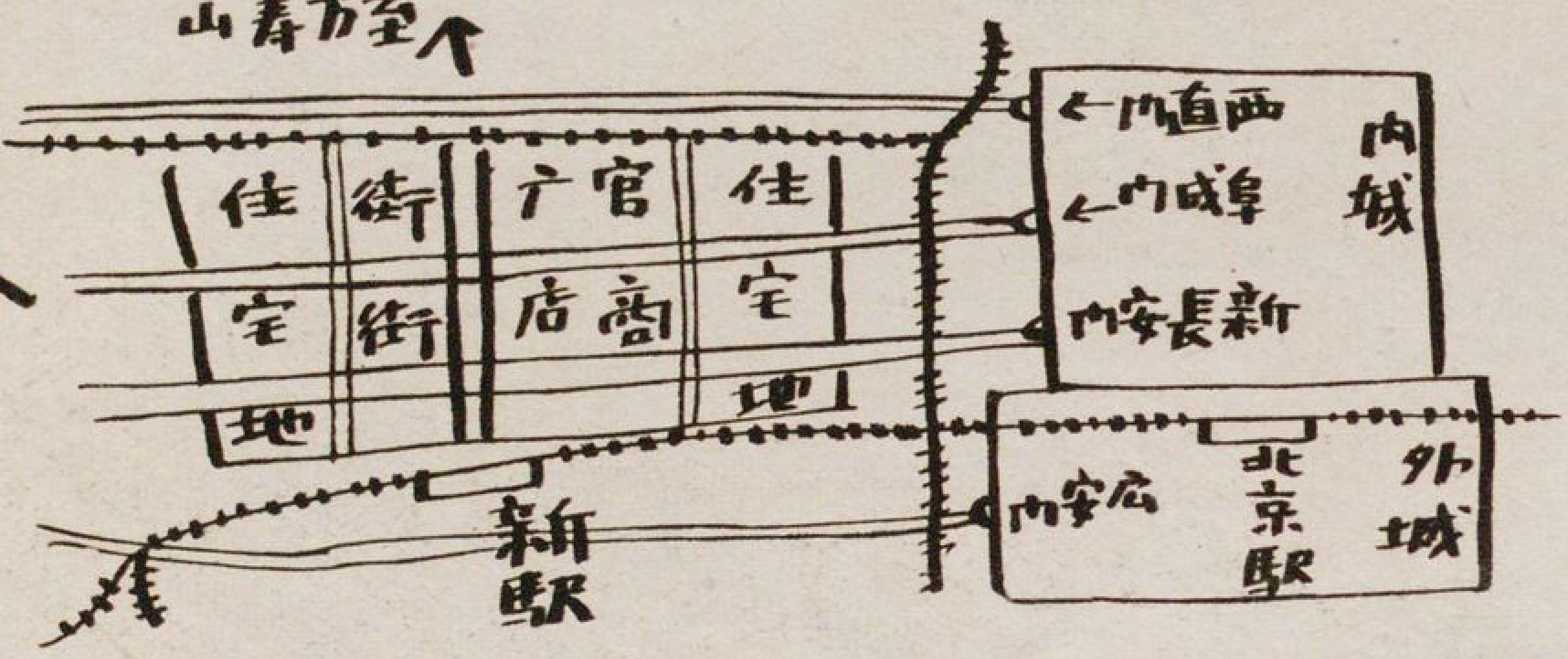
新生北京

事變後の北京は、急激な邦人の流入と治安恢復にともなふ華人の飛躍的集中で未曾有の發展をくりひろげ、新生北京への胎動に、搖すぶりかへされてゐる。從來の觀光の古都、消費の殿堂としての北京は、東亞新秩序建設の進轉の中心地としてあ架たゞしい擴張を急いでゐる。それは躍動的經濟都市への發足を物語るものだ。しかしそこには間に合せやゴマかしが顔をきかせ、歴史の香りを誇る北京に相應しくない薄汚いものも殖えてきてゐる。このゆがめられた北京の相貌を、發展的都市計畫によつて新生せしめたいといふのは、北京に住む者、北京へ旅した人々が等しく待ち望んだところであつたが、いよ〳〵昨年十月から新工事に着手した。この都市計畫は、一昨年來、臨事政府建設總署が古都北京と新北京の調和に最も心を碎いて立案したもの、第一期五ケ年計畫、費用約二千萬圓が計上されてゐる

案によれば、新市街の位置は阜成門から西へ六キロ、萬壽山の南に當り、西方七キロの地點に一文字山、西北方に西山などの觀光遊歩地を控へ、南に冀東平野が開け眞に恰好の地である面積約六百五十萬坪、三十萬の人口を收容する豫定で、その市街の概略は、まづ北京の銀座通りとも呼ばるべき興亞大街と長安大街の交叉點を都心として、その南に中央驛、驛前並に中心地附近に大商店、銀行、諸會社を集中させ更にこの附近に繁華商店街や住宅地も配置する。また學校、病院、市場小賣商店もこゝに集められる筈で、中學校以上は市街都心から離して公園區域におく。北京都城と通ずる長安大街は幅八十メートル、興亞大街は百メートルといふ大通りで交通機關は電車を排

してバス系統とし歩道は街路樹を植ゑて都市美を保ち、全都市の公園化を計るとともに上下水道を架設して近代的衞生都市とする

現北京の市街はあくまで世界の公園として觀光古都の姿をそのまゝ保存し、別に大規模な新北京が建設される。これこそ新秩序の躍進譜である





Construction work on the New City Outside Peking

新市街へ通ずる城壁の取こわし



元氣な朝の全校體操

次代を擔ふもの

北京日本人小學校

北京には日本人小學校が三つある。中でも東城小學校といふのは、工費六十五萬圓（經費約二分ノ一は華北交通出資）敷地總坪數約一萬一千坪、その大きさといひ、設備といひまさに北支隨一、內地の一流小學校に比較しても優るとも劣らない、思へば今から三十五年前――明治三十九年――開校された當時は兒童數僅に六名、今次事變が起る直前でさへ百五、六十名にすぎなかつたものが、現在は實に二千三百名、先生五十名と云ふ驚くばかりの大飛躍を示してゐる



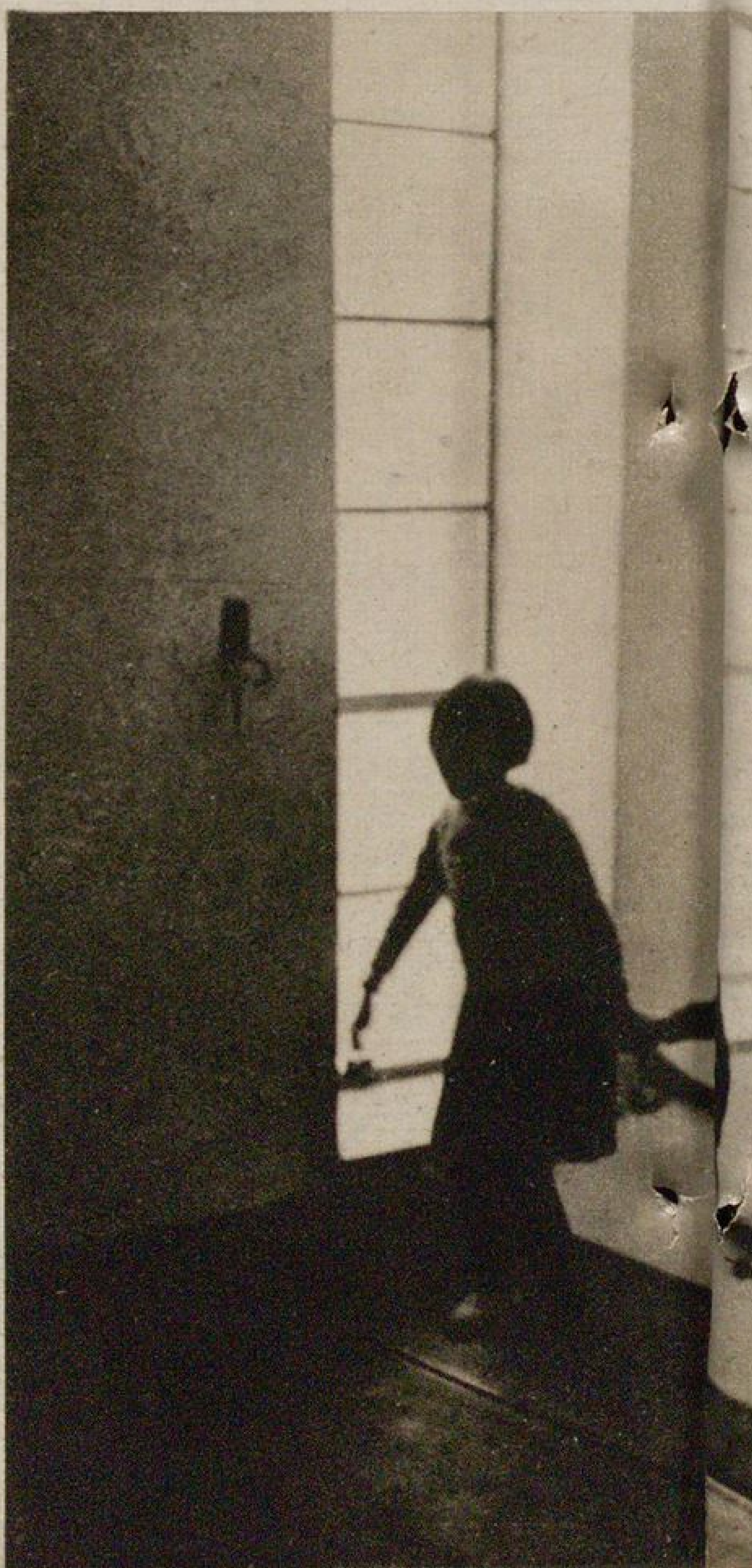
明るい廊下



新校舍玄關







オラス

Educating the Future Generation of Japan, Peking

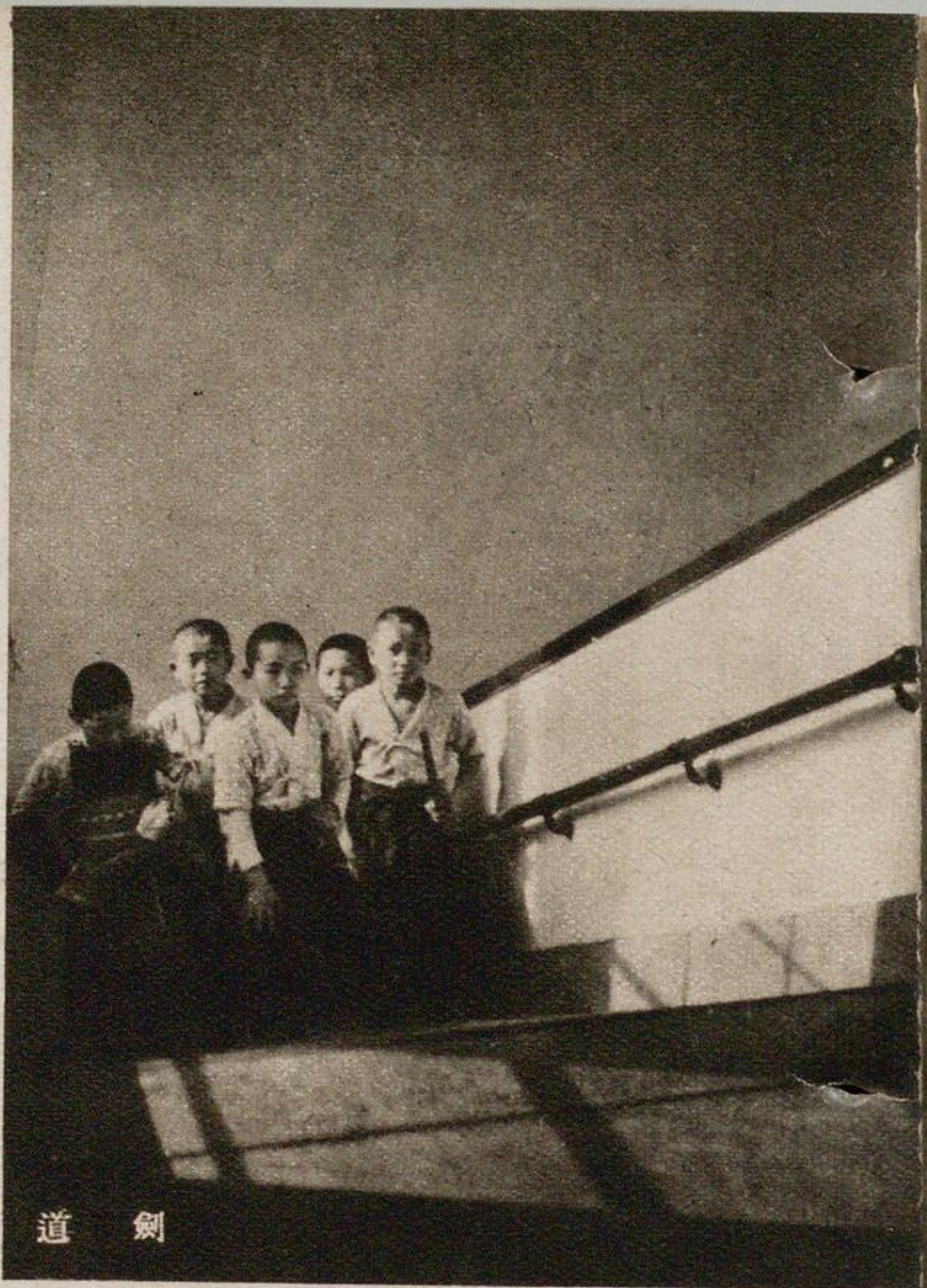


支那人の先生に習ふ支那

次代を擔ふもの

北京日本人小學校

同校自慢の設備は、まづ第一にテラスで、內地でも慶應幼稚舍とその他一つあるだけの豪華版、又海外にあつて兎角忘れがちの祖國の美風を修めしめるため、行屆いた設備の作法室もある。青疊四十八枚がしきつめられ、室內には床の間も違ひ棚もあり北支では一寸見られぬ純日本式の作りである大陸に骨を埋める覺悟の在留邦人にとつて一番頭痛の種になるのは子弟の教育問題である。このやうな完備した小學校が出來上つたと云ふのもかうした問題の端的な一つの現れであらう日支融和の精神に生きることを校訓の一つとしてゐる同校では支那語の先生がゐる。土地柄支那語はお手の物だ。家に歸れば朋友は支那の兒童達、親御さん顔負けの親善振りである。事變前通學の途中再々危害を加へられてゐた兒童達のあつたことを思へば北京の街も變つたものである



劍道



裁縫は日本間で



五原



A BIRDS EYE VIEW OF WU-YUAN

軍報道部

高田中尉撮影

厚生列車

綠一色に塗りつぶした、觀るから清新な列車が、旗飾りも美しく、新大陸の曠野を疾走することがある。これが慰安と娛樂と物資とに惠まれない新大陸の鐵道從業員や皇軍勇士に對する激勵と慰問と福祉增進とを目的とする厚生列車であり、傍ら二千九百萬の愛護村民に對し施療施藥や物資廉賣等の恩惠工作を實施する愛路列車である。時期は春と秋の二回。列車は廉賣車、娛樂車、産業車、施療車、愛路宣傳車、調理車、食堂車、警備員車及一般關係、乘務員車等およそ二十二、三輛から編成され、沿線各驛を逐次運行する。そこに集る日華人に對し米、麥、メリケン粉等をはじめ酒、味噌、醬油、罐詰吳服、雜貨等日常生活必需品の廉賣をなし、一方では、罹病者への診療施藥や日華兩國人より成る演藝映畫を公開し、更に鐵道や軍關係者及愛護村有志等を、食堂車に招待して日支交歡會を開き、農産物や模範鷄豚舍を設けた産業車では、一般愛護村民の爲に、これを公開して、農事思想啓發の參考に供し、また愛路宣傳車に於ては、特に愛路講演をやつたり、愛路寫眞やポスターなどを展示して、愛路思想の强調徹底に努める。華北交通會社は、大陸開發の先驅を以て任ずる使命遂行のために、特にその運營に力を入れてゐる



A Comfort Train

颯爽厚生列車來る



移動演藝に集る愛護村民



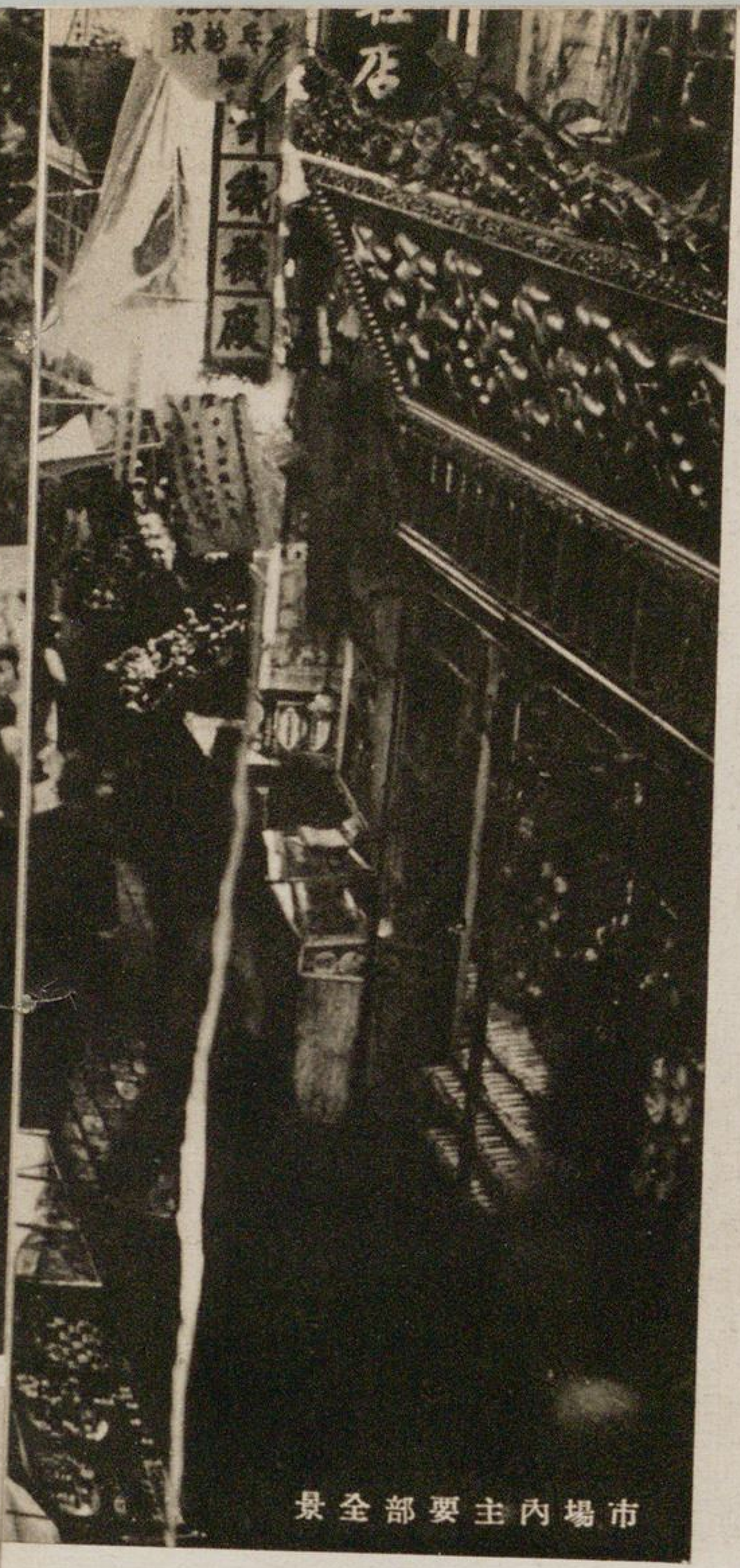
大繁昌の販賣車

東安市場

The Tung-An Market, Peking

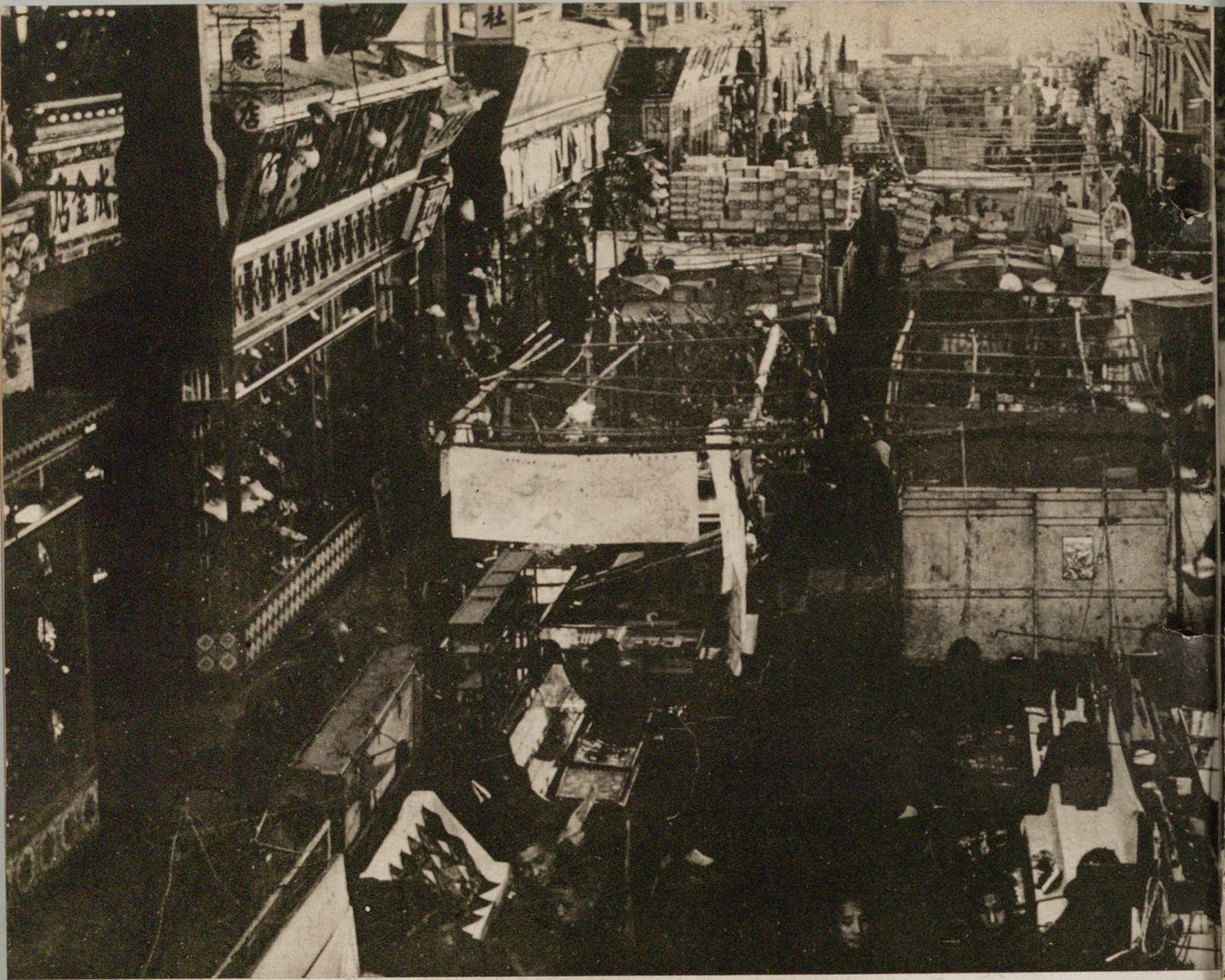


場入口自轉車預り所



市場内主要部全景

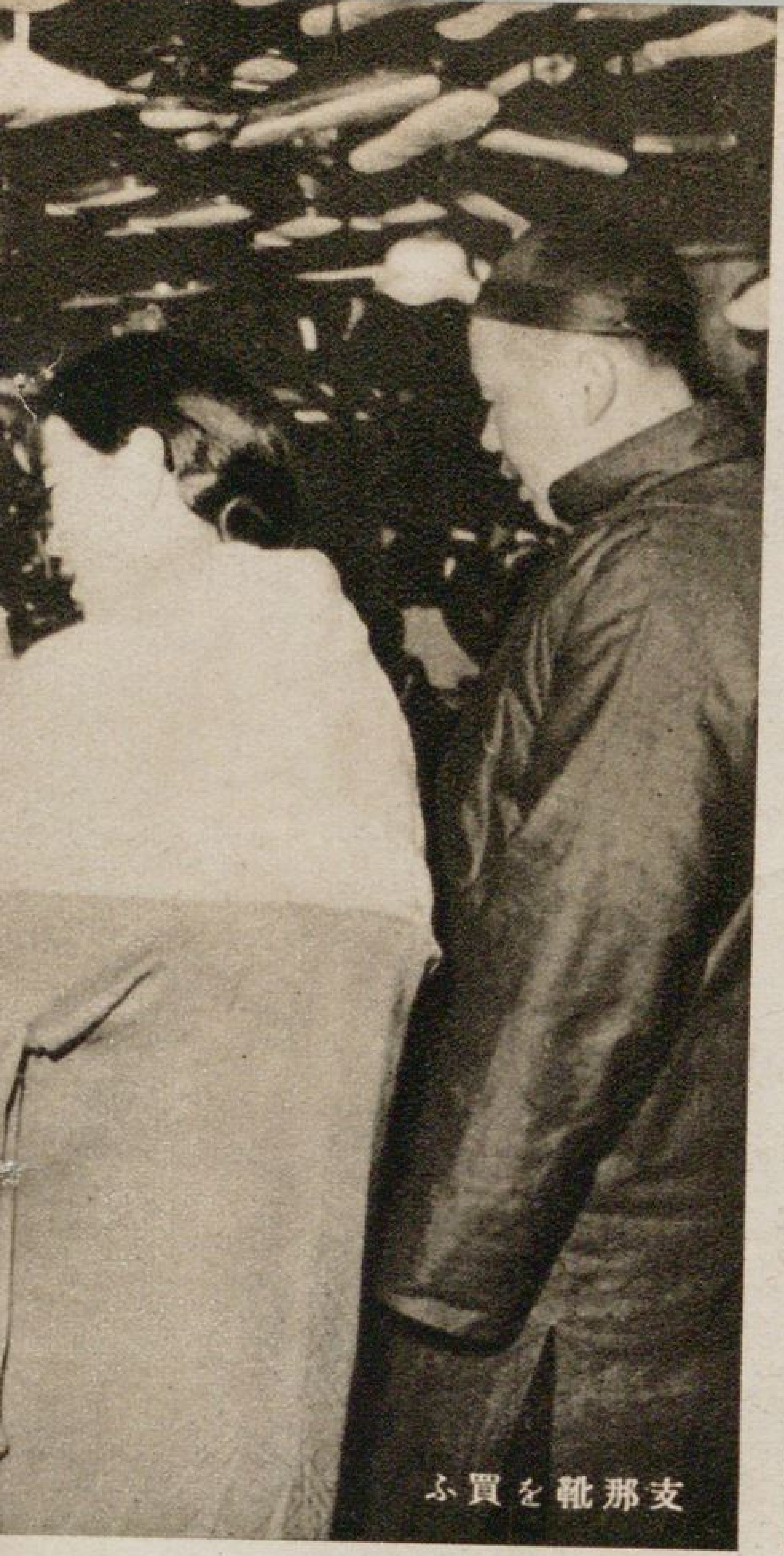
洋車にのつて「イチバ」と云へば「ミンパイ、ミンパイ」で文句なしに市場へ着けてくれる。東安市場と殊更難かしい支那語を使はなくても、こゝだけは日本語が通用する。それ程までに東安市場と日本人は密接に結ばれる様になつた。まだ紫禁城や萬壽山を知らない人でも市場だけは毎日の様に溜達々々（散歩）してゐるから不思議である「お腹すかない」「なにか喰べようよ」「お金？」「ある」「ぢや何を喰はう」「勿論支那さ、鄕に入れば鄕に從ふ」「ぢや東安市場へ行かう」何事かあれば日本人の行くところ、東安市場である。一日の入場者一萬五千人を下らないと云はれてゐるが、その内三分の一まで日本人であると云ふからすさまじい。（在留邦人は五萬人です）では日本人のお好きな東安市場を一寸のぞいて見よう



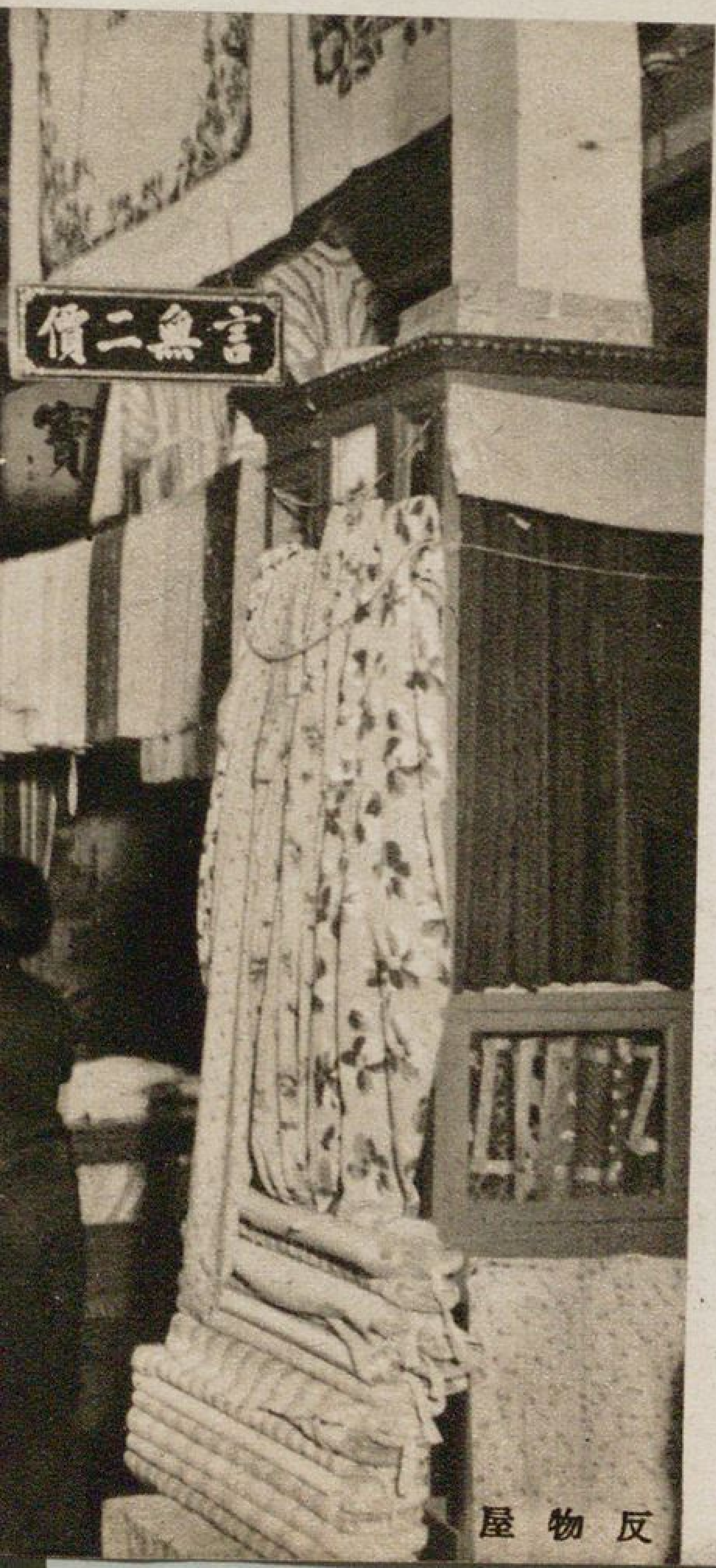


市場裏手空地露天の手品師

▲六六〇軒の店舗と露店――靴屋もあれば洋服屋、飯館子、雜貨屋、呉服屋、本屋、骨董屋、藥屋、喫茶店、なんでもある。事實、不老長生の藥からコテイの香水、ロシヤの百ルーブル紙幣、日本品ではアイスケーキの機械から五島のスルメまで――新しきも古きもありとあらゆるものが實に雜然とある。果ては齒醫者、輕業師、講釋師、芝居小屋まである。その中で何んと云つても横綱格は飯館子である。四川、廣東、江蘇、山東、河南の各飯館子が櫛立してゐる。ジンギスカン料理で有名な東來順など使用人百五十名、その財産も六百萬圓を下るまいと云ふ


支那靴を買ふ


古本屋と骨董屋の通



反物屋

東安市場

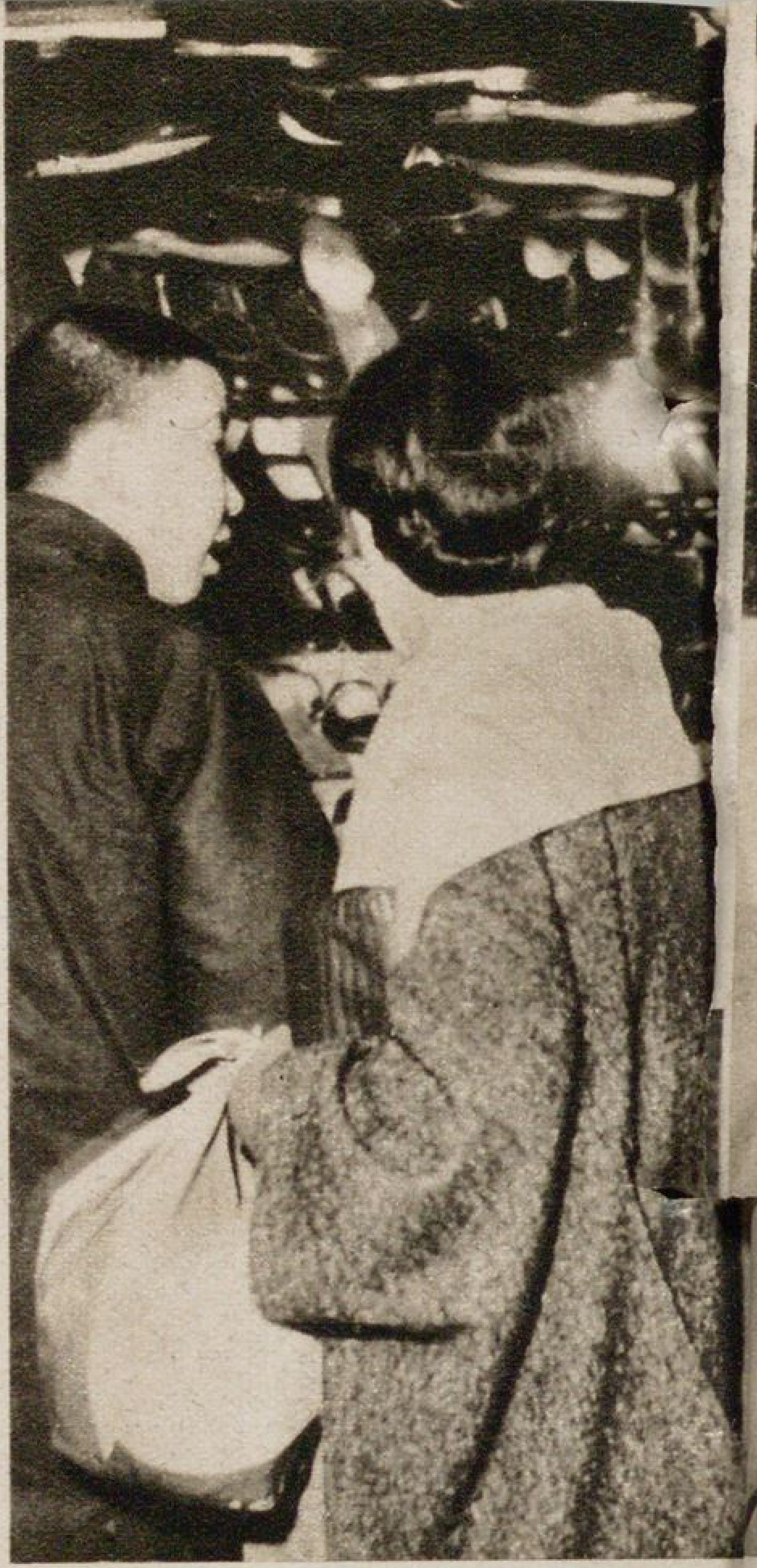
The Tung-An Market, Peking

東來順に次ぐ金持は百貨店の稻香村で約三百萬圓、その外百萬圓前後が數軒ある。この市場の魅力は四季とりどりに新しい季節の感觸を我々に投げかけることだ。玩具屋の軒先に紅い燈籠がぶら下り、菓子屋の前に雜拌兒、年粿が並べられると、北京の街々には急に正月氣分が漂ふ。それが春になれば玫瑰餅、花屋の店先に晩香玉がふくよかな香をたて始めると夏が來る。秋には菊、飯館子の食卓に蟹の姿が見られなくなると冬の影がそつとしのびよる

明の叛將呉三桂の邸の跡にこの市場が設置されてから已に三十八年、この間に三回の大火に見舞はれてゐる。現在の建物は十六年前の大火の後に新しく生れ變つたものであるが、事變前迄は不況を喞つてゐた。現在の好景氣は事變後の邦人の增加によるもので、東安市場は日本人によつてその繁昌を保ち得たと云ふことが出來る。東亞新秩序建設の聖戰の意義がこゝにも顯着な實例を示してくれるのである



扇子團扇の店





飯館で涮羊肉をつつく



蟠桃會

Pan Tao Hui, the Girls' Festival

境內前殿內部大園遊會神々の群像





春風駘蕩蟠桃宮の遠望

三月三日、日本ならば桃の節句である。お雛樣を飾つて桃の花に白酒を供へる、と云ふところだが、こちらでは趣が違ふ。むろん事の起りは同じであらうが。蟠桃と云ふのは別名壽桃、東海の度索山にある大桃樹の實ださうだ。この桃は種を蒔いてから三千年目に芽を出し、又三千年目に一本立ちとなり更に三千年經つて始めて實を結ぶと云ふ大變な桃である。とにかく一生懸命に不老長壽を念願した中國人の氣持を表して遺憾ない。よく支那の玩具に桃を抱へた人形を見受けるが、それは多子多孫の意に通ずると云ふ說もある。ともかくも道教が老子のイデオロギーをかけ離れた恐ろしく實利一點張の多神教に迄發展して現に中國全般に普遍してゐるのは何と面白い現象である

さて北京東便門内に蟠桃宮と云ふあまり大きくない廟がある。祀神は娘々、娘々は唯一の女性神で娘々廟に違ひないけれどもここのはその總大將とも云ふべき王母娘々を祀つてゐるので廟格から云つても第一に擧げられる

舊曆三月三日と云へば柳の糸もそよろな時節でいかさま春風駘蕩、お祭りにはうつてつけだ。この日天上では王母娘々主催で諸神を招いて大園遊會をなさる、諸神は各々桃を一つ宛獻上すると云ふ傳說である

お祭は三日を中心に三月一日（今年は新曆四月八日に當る）から五日迄で、崇文門外の横丁から參詣者目當の貨驢馬片道十錢が出る。あの鈴つけた驢馬に乘り、暑からず寒からず護城河に柳の並木あるぼこぼこ道を行くのも決して惡くない



燒香する姑娘と太々達



曝す

王府井の大通りや北海、中央公園のほとりを蓮歩逍遙する姑娘たちの身に纒ふあの旗袍は、その大半が日本製である。支那は世界屈指の棉產國ではあるが、その加工品は逆に日本をはじめ外國から輸入してゐる。それは支那の近代工業が立遅れてゐて、外國から製品を輸入した方が自國で生產するよりも安價で質がよいからだ

今のところ染色工業の實狀は規模は小さく生產も振はず技術も日本の京染などと比較にならない。しかしその起源は日本よりも遙かに古い。今から約二千年前、漢の時代に、梅、葛といふ二人の醫者が染色原料を發明して、これを民間に擴めたと傳へられてゐる。その後、淸の光緒二十六年拳匪事件以後各地の通商開禁によつて歐洲の染色原料が輸入され、方法も近代化されて來たが、現在に及んでなほ家庭手工業の域を脱してゐない

北支では北京、天津、青島一帶が工業地區として有名だが、事變以來の原料價格の昂騰と諸物價騰貴のため民衆の需要も減じ各地とも以前の面影がない

北京の染坊（染色工場）は二百年の歷史をもつ大順號をはじめ、現在四十一軒、工人約四百五十人、年產は約二百二十萬疋位

染色の原料は殆ど木の葉や樹皮や果實などで實用的な藍色が最も多い。なほ染坊の工人は、水賣り人が山東人であり、風呂屋が保定地方の生れであるやうに多く地方からの移住者で、大抵山西の山奥から出稼に來たものである



染物屋の店頭



染色

A Dyeing Factory



劉海式小辮に端午の

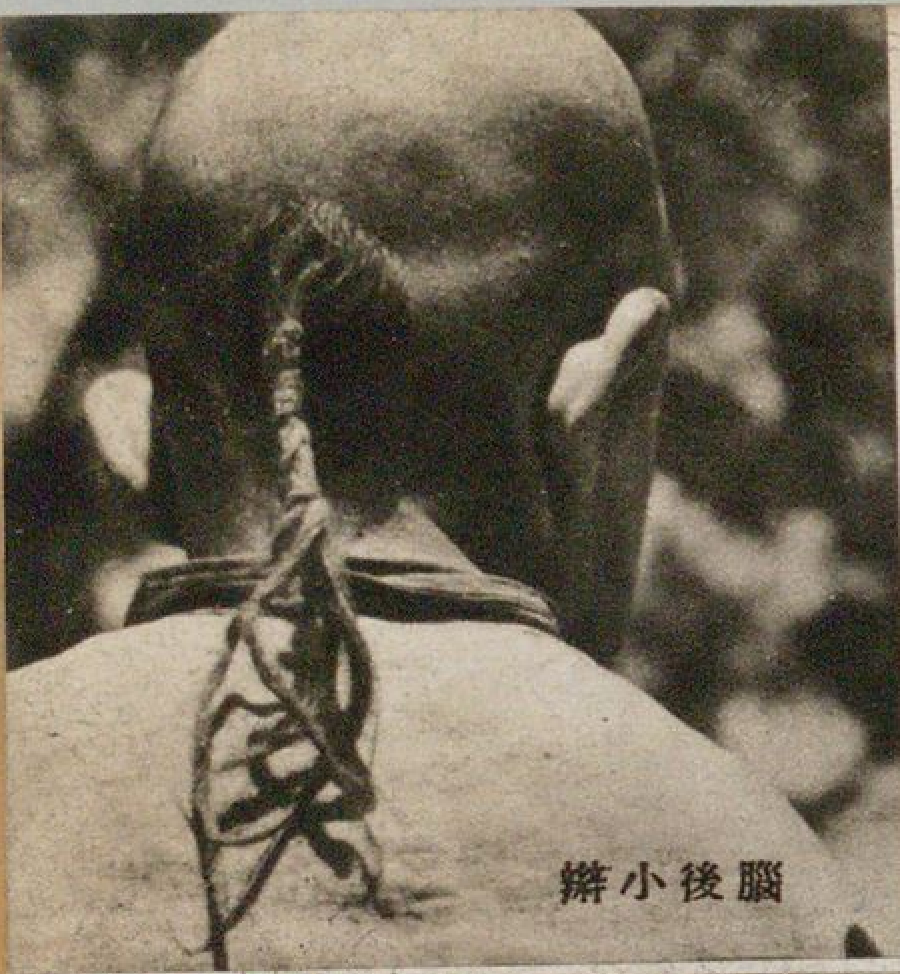


湯髪（斷髪パアマネント

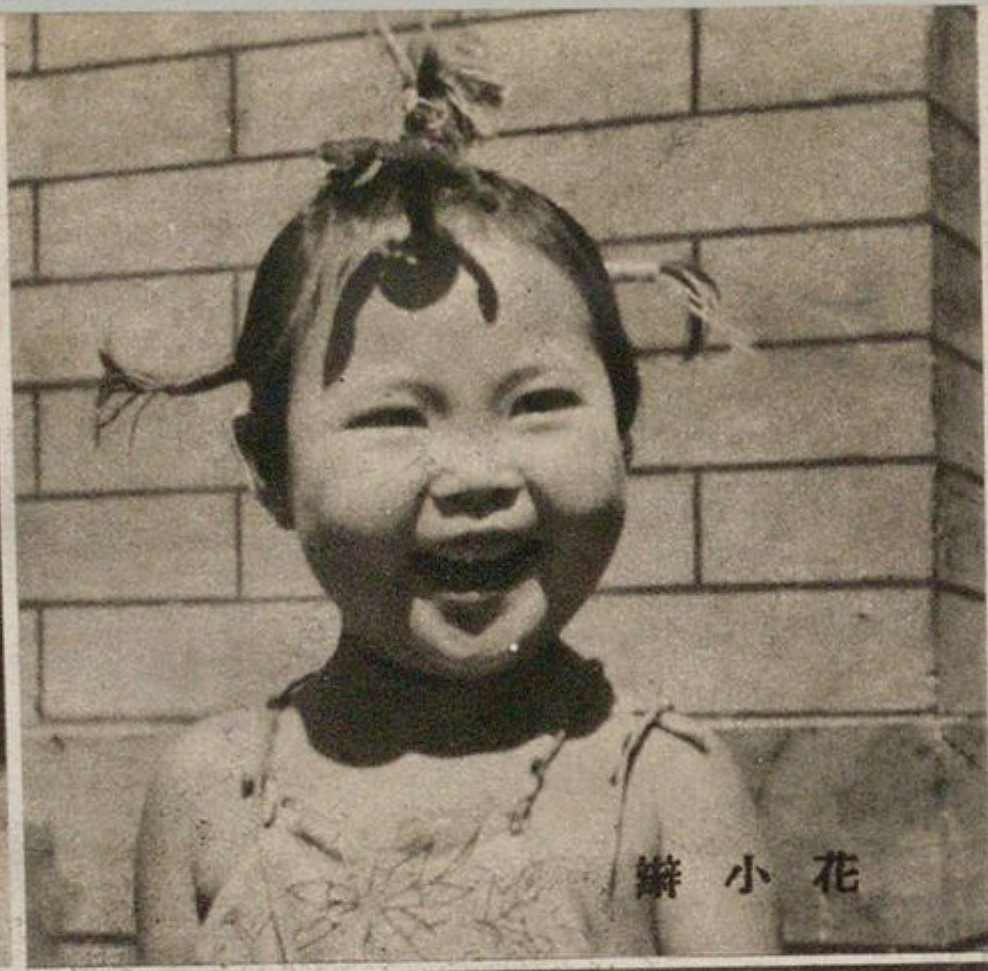
髪のいろいろ

Chinese Coiffures, Young and Old

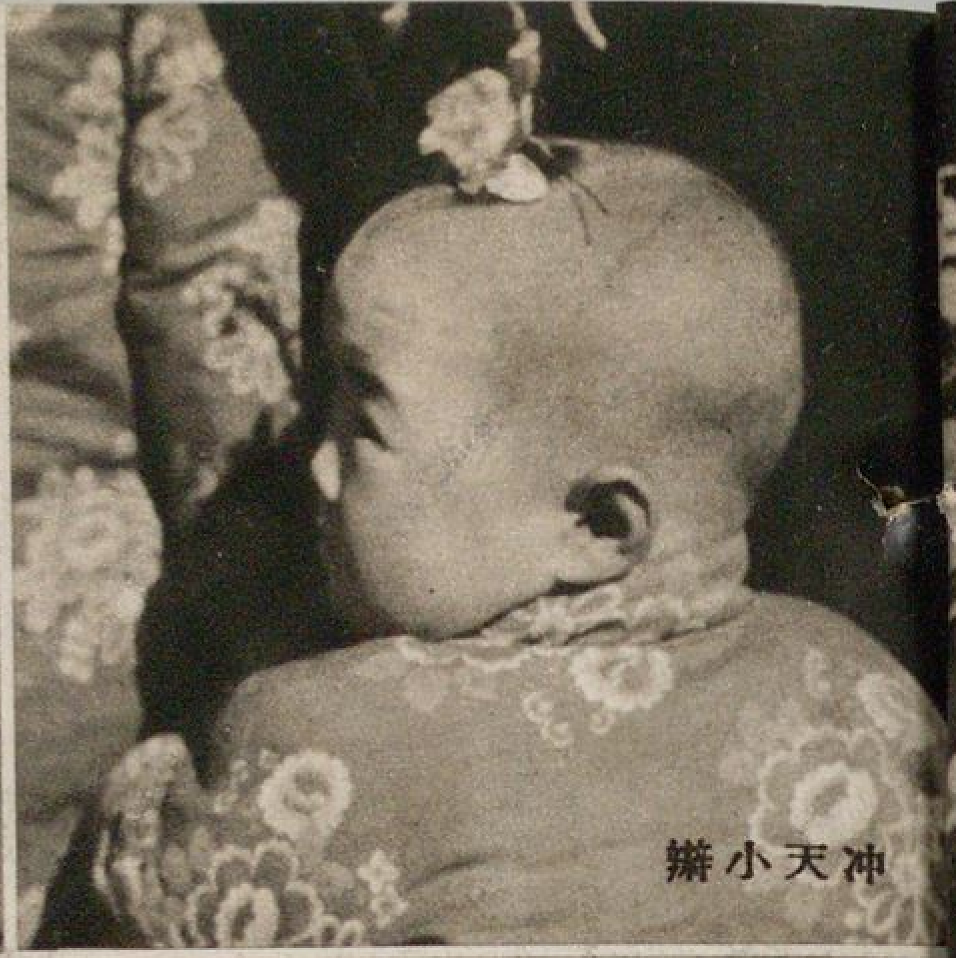
日本でもまだ田舎に行つてみると子供の髪の一部分を剃殘した風俗がある。あれのもつと大げさなのが支那では、都會と田舍の別なく行はれてゐるのです。支那では子供が生れたら百日目に生毛を剃り、その後時々剃り少し黒くなつた時分に髫髻といふのを殘して置く、少し伸びたら赤絲で所々結びます。これを蒲桃髫と云ふ、可愛らしいものです。その後男の子は月代を剃り、周園に幅二寸位の輪を殘す。女の子は月代を剃らず眞中の毛を圓か四角にまとめて辮子にして周園の毛を切揃へて河童に下げます、これを冲天辮と云ふ。さて女の髪はどうか、部分的に分けてみると劉海（前髪）鬢（額の兩側）辮子（これは童女だけの編髪）髻（眞中の束髪する部分）後影（横鬢の毛を後へ廻した日本のタボに當る部分）と云つたところで、各々時代の流行があります。それに既婚未婚の別、髪飾の別を述べたら隨分煩雜になる。總じて都會地最近の傾向は簡易を旨とした文明歐化の傾向が強く、此頃北京の街頭に見るモダンガールは例外なく斷髪ウエイブの颯爽たるものです



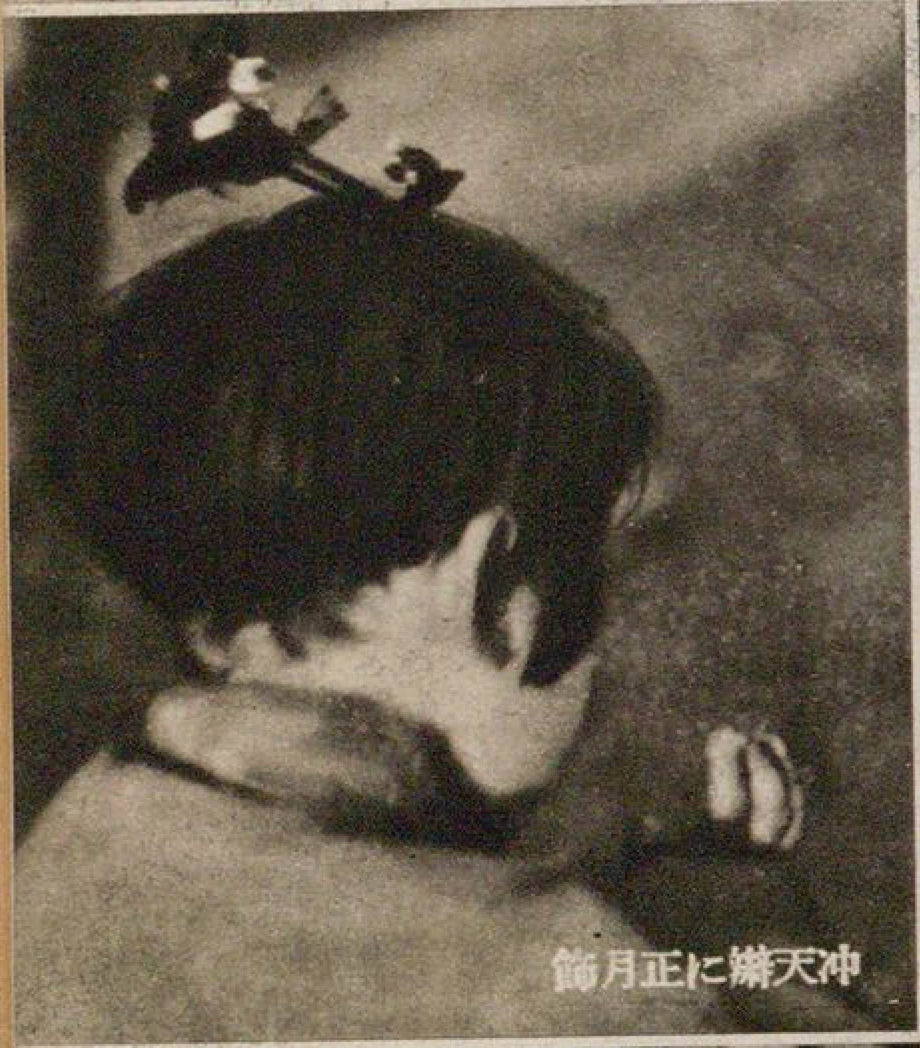
腦後小辮



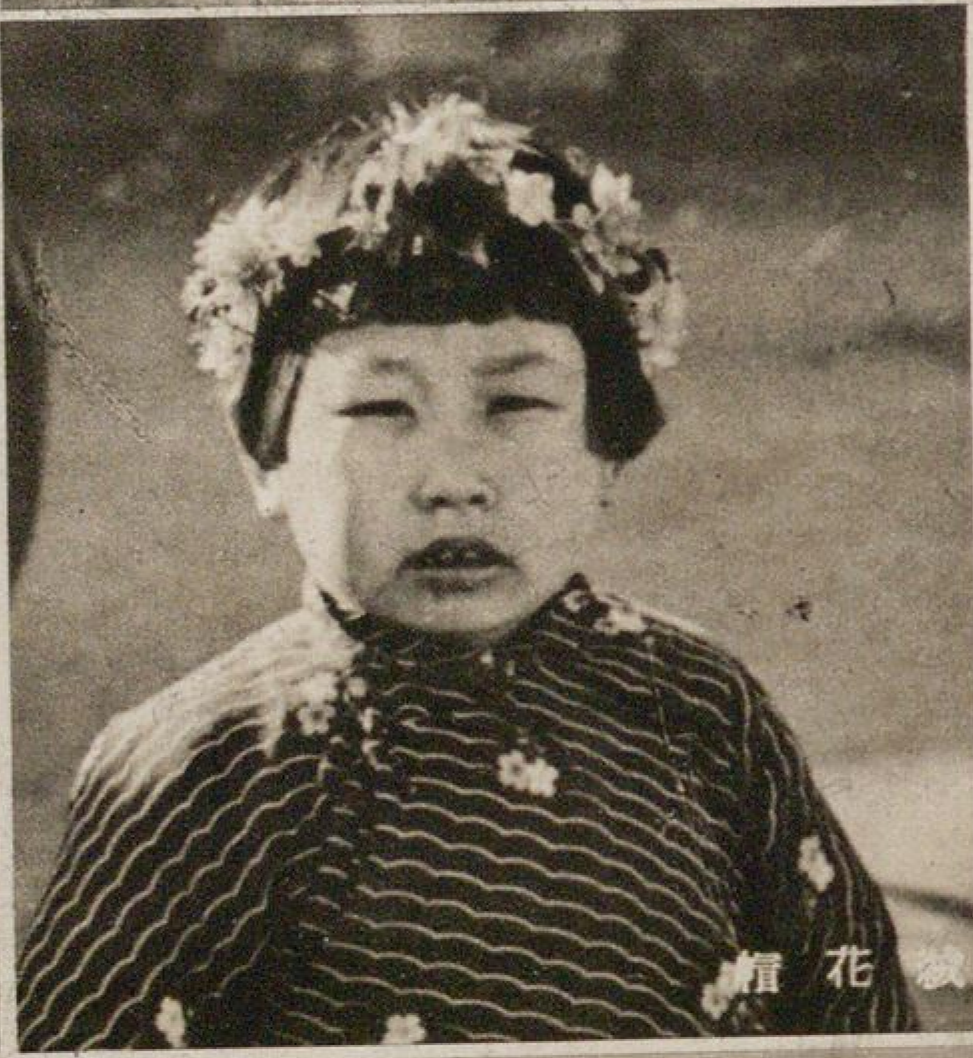
花小辮



冲天小辮



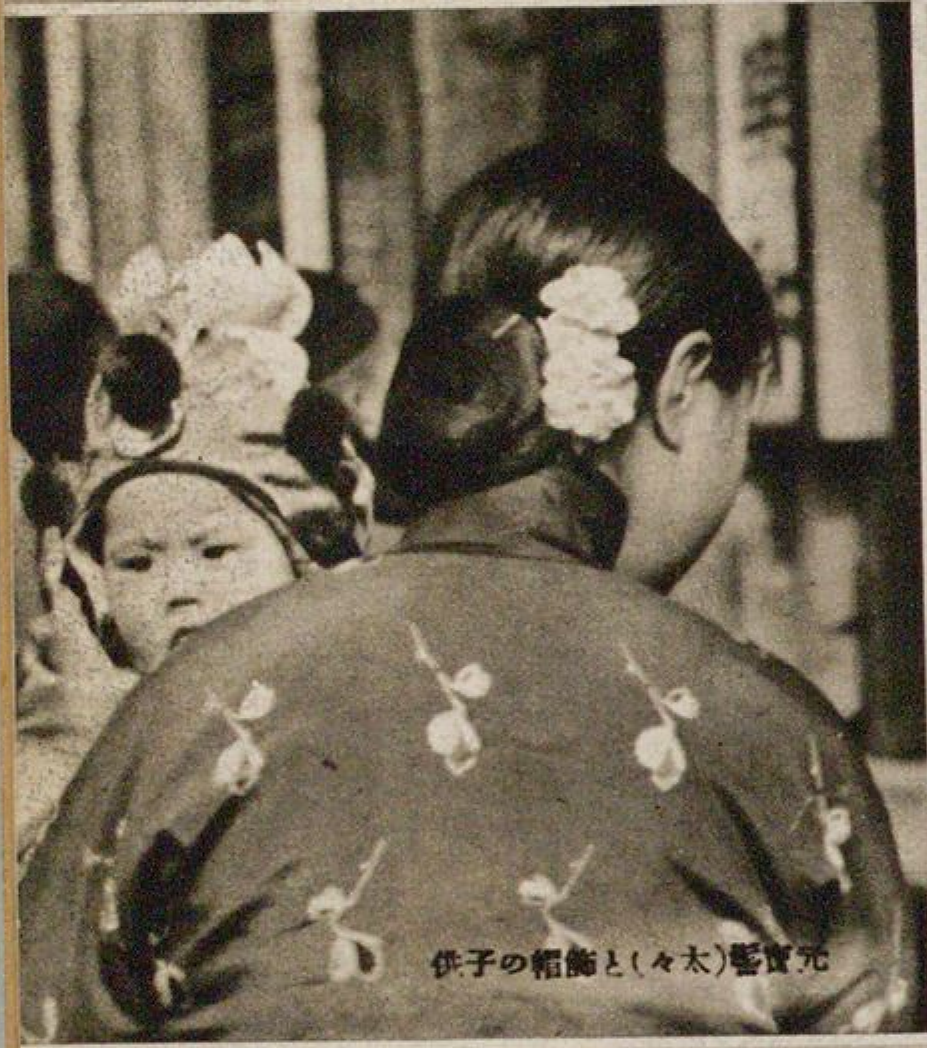
冲天辮に正月飾



絨花帽



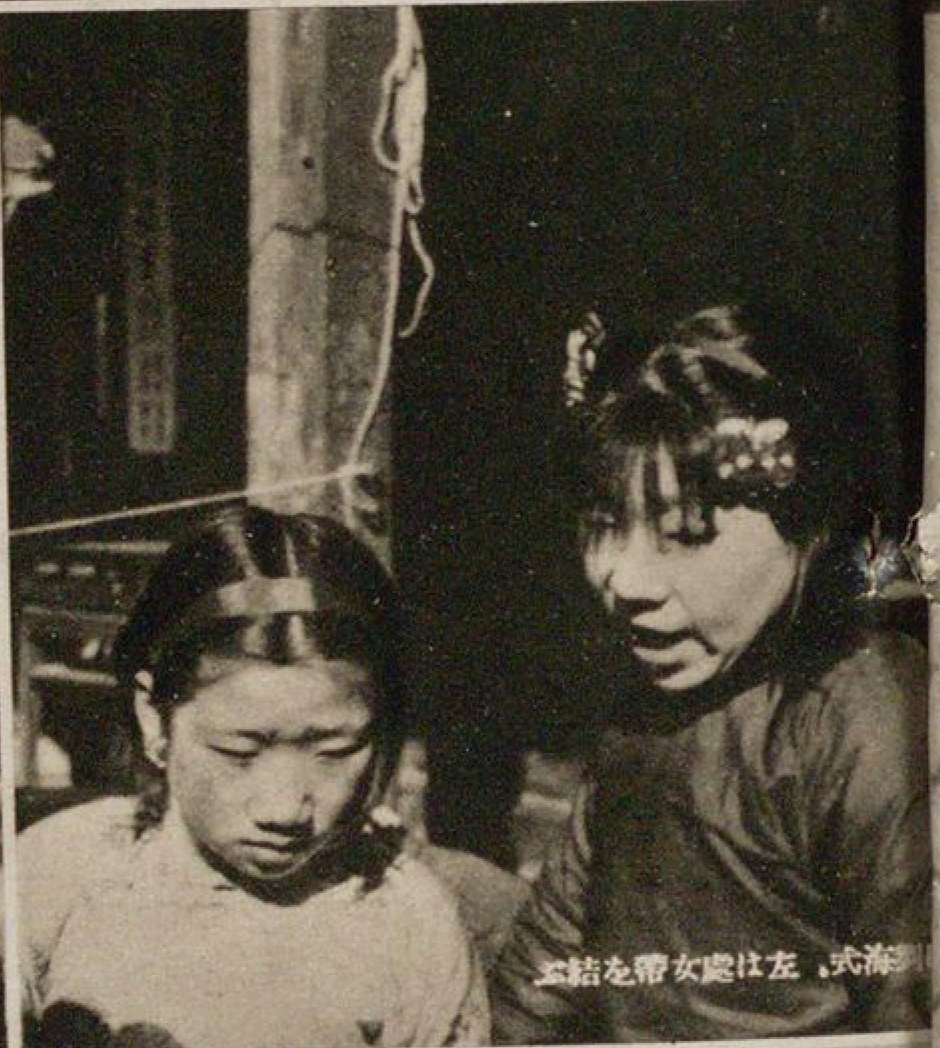
々は北京式、小孩は冲天辮に正月飾



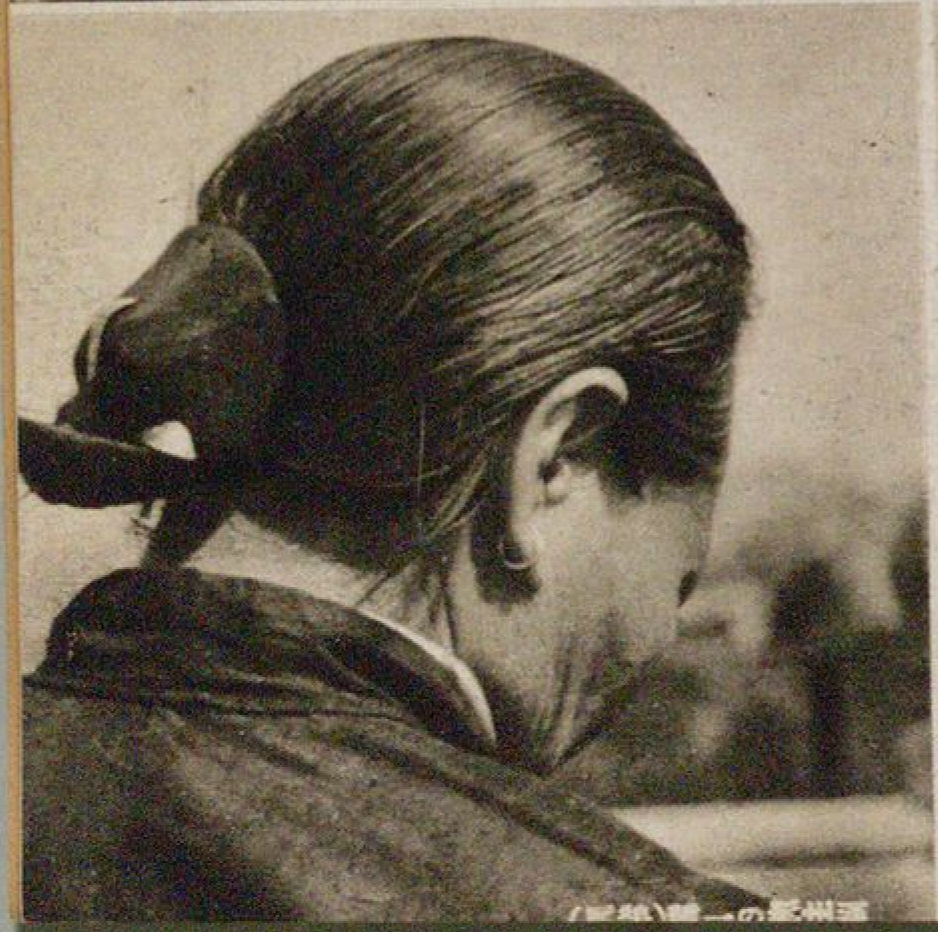
元寶髻（太々）と飾帽の子供



辮子（右）と劉海（左）



劉海式、左は處女帶を結ぶ



通州髻の一種



元寶髻



通州髻の一種

大きな歴史 小さな歴史

News Flashes from Nortn China



北京の紀元節

紀元二千六百年の紀元節を壽ぎ、大陸各地では、盛大な奉祝式典が擧げられた。この日、興亞の基地、北京では東單練兵場に、在留邦人約三萬が勢揃ひし、國歌齊唱、東方遙拜、橿原神宮遙拜をなし、終つて隊伍堂々、市中行進を行ひ、聖戰の地に一しほその感激を新にした ←





日本に醫學使節 →

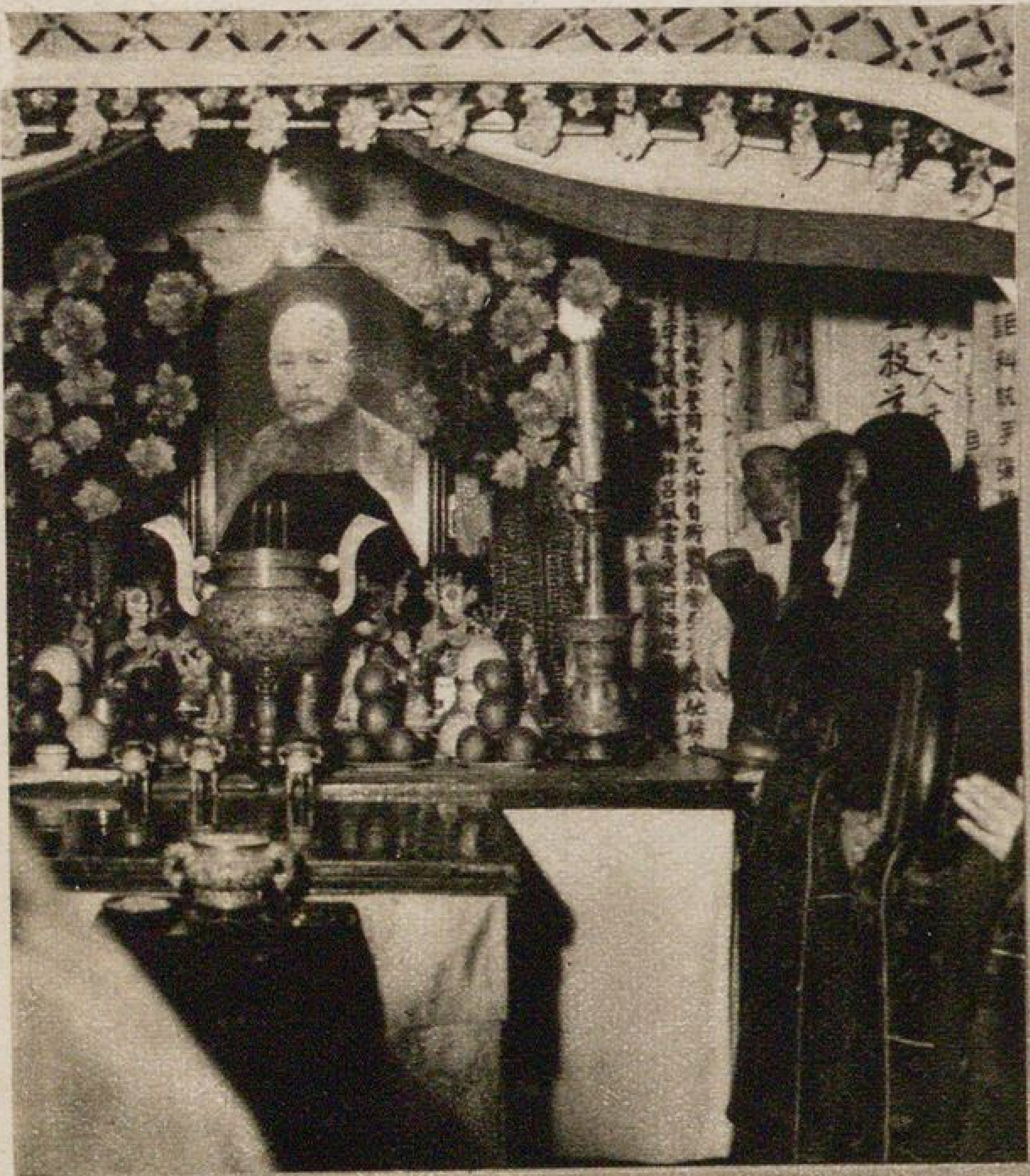
〃大陸醫學建設〃を目ざし、四人の中國人醫師が、二月十四日、北京發列車〃興亞〃で赴日の途についた。この醫學使節は華北交通會社から派遣されたもので、東京で一ケ年間勉強、歸國後は中國醫術向上のため大に貢獻しようといふのである

吳佩孚將軍の葬式

吳佩孚將軍が逝去してから四十九日目に當る一月二十四日、同將軍の葬儀が北京で執行された。膚を刺す寒風の中に蜿蜒長蛇の大葬列は肅々として什錦花園の自邸から德勝門內大石橋の拈花寺に行進した。儀仗人三千名、僧侶四百名と謂はれ、葬送人は沿道に黑山の垣を築いた

↓










無敵！國産第一位
ムッソリーニペン
スラスラ書けて
錆びず値の廉い
國産の逸品！
讃えよ國産！
クラウン万年筆
流線型
書きよく
體裁優美
構造堅牢
新生國策
イリヂュゥム
白金ペン付

大阪 株式會社 澤井商店

清朝末期 一佛人の支那論

朝倉美奈雄

北京の古本屋を漁つてゐると神田あたりでは得られない明治時代の珍本を掘出すことがある。先達東安市場で「支那現勢論」といふ飜譯本を手に入れた。

原名は

LA CHINE. Expansion des Grandes Puissances en Extreme-Orient

著者はM・Sとあるだけでどういふ人物なのかわからないが、この原著のものされたのは、約四十年前、清朝末期の支那が英、佛、獨、露の列强に狙はれて分割の一歩手前にあつた一般情勢を解剖しつゝ、老獪英國の侵略政策を痛烈に暴露するとともに、佛國政府の對支政策失敗の原因を指摘して、政府當局を鞭撻しようとしたのが著者の意圖であるらしく、全卷を蔽ふ調子の高さから見て當時の極東通であり、また一個の國士型の人物であつたことが想像される。鋭い觀察力が、時代と極東情勢を一變した今日に於て、なほ一種の迫力を持つてゐる。

× ×

「幸にして一國あり、その文明は異様なるも而も甚だ觀る可きものあり その人民は勉强にして且つ蕃衍し、その富源は未開發なるも而も無量なり。ヨーロツパの口腹を充たすべき最甘至美の好餌食はこれを棄てゝ他に求むべからず。その國は果して何となす。東方の大陸に蟠踞せる支那帝國は卽ち是なり……」

これはアフリカ分割の成果の前途遼遠を空しく待つの要なしと前提して述べた序文の一節であるが、絶好の獲物として支那の植民分割を企圖してゐた當時のヨーロツパ列國の魂膽をさらけ出してゐる。かうした對支侵略の爭覇から佛、露、獨が漸次落伍して英國獨り頭角を現はして近年に及んだその見透しも著者は四十年前につけてゐた。

我々は今日東亞新秩序を唱へるにあたつて、やゝもすれば東亞舊秩序の本質は何ぞやといふ命題を忘れがちになる。東亞に眞の獨立國は日本だけしかない。他の諸國には何れも歐米の息がかゝつてをり、特に數年來の支那は幣制改革以來、英國の經濟的支配下におかれた。この事實がすなはち舊秩序である。「支那現勢論」でこの著者はイギリス勢力の根强さの據つて起つた事情を實に明快に述べてゐる。

「英國の常套手段は列國をして反目仇視せしめ、自家に必要なる者と陰謀を通じ、同盟の力を己に利用し、己は僅に補充的役割にとゞめ、由りて以て大亂を挑發し、活劇いよ〳〵開くに至れば、當事者たるよりも寧ろ證人となりてその局に參與し、計算の時期到るに及べば主たる部分はとりて己が囊底に收め、殘餘の部分を頒ちてこれを同盟國に與へ、無視せられざりしを以て幸とすべしと爲すにあり、これ英國が世界に對し慣用するの手段なり……。フランス軍はかつて支那の海陸を壓して陸軍は東京を占領し海軍は一時臺灣を封鎖して舟山を占據したこともあつた。數億フランを費したこの遠征の成果はイギリス政府の勸告によつて水泡に歸したのである。血と黃金の犧牲によつてフランスが親交なるイギリスと共に從事した結末がどうなつたか、クリミヤに於て、支那に於て、またエジプトに於て吾々はよく知つてゐる……」

こゝで著者はイギリスの威海衞占領を指摘して

「イギリスは忽然假面を脫し、一點

内容

日本の利益をも顧みず、日本の輿論を蹂躙し、自ら以て快となすか」

また

「大英國を同盟として自ら益せんと夢想する無邪氣者流に最も恰好なる鑑戒なり」

と揶揄してゐる。

× ×

そも／＼フランスの支那植民地政策失敗の原因は、活潑にして知識に富める開拓者のなかつたことで、工場商館を起し、また貿易の振興を圖らないで植民地の發達はない。フランスが極東遠征の軍を起した理由は宣教師の保護にあらざれば國民虐殺の報復である。極東に於ける我國の政策は、商工業、航海業發達を起點としないで、いたづらに征服者として兵力干渉を加へるのみであつた。一八八四年から一八九一年に至る六ケ年間の支出は五億フランの巨額に上つてゐるにも拘らず、道路の建設河川港灣の改修といつたやうな住民の利益のために投ぜられたものは一つもない。然るに英國の政策を見るに先づ個人の資本が進出し、その利益擁護のために政府を引きずつて來るのである。しかも局地重點主義に基いて商業貿易の殷盛を圖ることに努力を集中し、輕々に遠征の軍を起さないが、國民の保護上やむを得ざる場合には遠征敢て辭せない。一たび軍を起せば必ず輸出吐港の進路及び植民地焦點を獲得するのである。英國植民地政策の行進は一つに打算に立脚し道義如何は問ふところではない。自己の利益のためには敢て禮儀を問はず人權を顧みない。これが英國が經濟上、政策上世界無比の好地位を獲得した所以である。顧みて佛國を見るに常に英國より輕侮をうけ或は倨傲な干渉をうけ、無限の屈辱をうけてゐる。フランスは斷乎起つて彼の假面をはぎとるべきである。吾人は正直に自白する。吾人の植民地事業はやることが皆トンチンカンであつた。收利を外にして徒らに名譽をうるに汲々とし、無益の巨費を消耗すること一再ならずであつた。吾人は吾人の血誠を以て佛國勢力の强化に傾注しなければならぬ。領土の經營は片時も弛緩することを許さない。しかしながらたゞ徒らに土地幅員の廣大を求めてはならない。これは本國の疲弊困憊を誘發するからである。

× ×

「黄禍論」はしば／＼歐洲の天地を震駭した。しかしながら危機は今日むしろ東方にある。英國は滿洲に於けるロシヤの進出を阻碍し、山東に於けるドイツの發展を妨げ、また南部支那ではフランスの進路を壓へて支那大陸全土を擧げて英國の勢力下におかんとしてゐる。この際限なき野望達成のため、英國は或る國を誘つて同盟を結び、途方もない陰謀の片棒をかつがせようとしてゐる。しかし列强とても自己勢力の經營に精力を傾注してゐるのであるから他日英國の權益に對して火の彈丸を投ぜられることになるであらう……。

この火の彈丸は四十年後の今日、本質的に異つた意味で、彼が輕蔑した所謂「無邪氣者流」によつて投ぜられたのであるから、著者も草場の蔭で苦笑してゐることであらう。

英國は支那に於ける最も富饒な地域を收め、揚子江及びその支流並に鐵道を押へて終には支那全土の商業及び財政を支配する時が來るであらうが、若しこれを疑ふものがあるなら、それは英國の常套手段を知らないからである。英國は喜望峰からアレキサンドリヤ港にいたるアフリカを掌握し、いままた三億五千萬の消費者を有する支那を收めて藥籠中のものとし、極東の關門たるスエズを彼が玄關たらしめんとしてゐる。これに對して歐洲大陸は何を爲さんとするか。人道の大義によつて英國の政策を論斷するだけでは足りない。歐洲大陸たるものは貪慾無飽の英國に猿轡を箝めなければならない。

吾輩はわが佛國政府に對して常に貿易呑吐港を開くことに留意するやうに切望してゐる。同時にまた專制家が平地に波瀾を起して自ら利するが如き無制限の野心を起すことなくまた暴擧しば／＼ヨーロッパの天地を震駭する英國の行爲を倣ふことなく、外交の勝利によつて正當なる報酬を收め、一たび獲得した權益は斷乎としてこれを守り、民心を振作し國民をして外交に恐怖を抱かしめず常にこれに信頼せしめんことを政府に向つて深く希ふところである。佛國が占領した土地は廣過ぎて擴大すべき勢力を超過してゐる。證明はこの限度にとゞめて經濟的經營に專念すべきである。

× ×

今われ／＼は戰ひつゝある。四十年前に投ぜられたこの論を咀嚼し、現に推移しつゝある情勢を深く注視しなくてはならぬ。



圓明園の燒打

金丸精哉

非文化的暴擧

圓明園の燒打ちは、今に東洋文化史上の一大痛恨事とされてゐるが、この暴擧が、世界の文明國を以て自任する英・佛兩國の聯合軍によつて決行されたことは正に怪奇な事實である。

しかも八十年前にかうした蠻行を敢てした英佛兩國が、今では口を拭つたやうに抗日支那の「いゝ子」となり、わが東亞新秩序の建設をさまたげ、皇軍の誹謗を事としてゐるのは全く笑止の沙汰といはねばならぬ。

皇軍の入城によつて、北京の平和と支那の文化的遺産とは、二十九軍の敗殘兵や心ない土民の毒手から確保されこそしたれ、故宮名園等の瓦一枚すら損ぜられはしなかつた。これを往年の英佛聯合軍の非文化的所業に照らす時こゝにも我が「聖戰」の意義がうかがはれると思ふ。

清朝五代の經營

由來、清朝の天子は、一年の三分の二以上を北京西郊の園宮や熱河離宮で過されるのが例で、北京宮殿に還られるのはたゞ典禮のときだけであつたから、康熙から咸豐まで六帝のうち、大内で崩御されたのは乾隆帝御一人であつた。

從つて園宮の造營には大いに意を用ひ、北京城と郊外の西山との間だけでも圓明園、長春園、萬春園、靜明園、（玉泉山）靜宜園（香山）暢春園、西花園、頤和園（萬壽山）近春園、熙春園、樂善園等が營まれた。

中にも圓明園は、これらの諸園中最も廣大で、今の萬壽山の三倍餘りもあり、またその東と南に壁一重をへだてて連らなつてゐた長春園と萬春園とをその境域に取りいれ、圓明園總管大臣の管轄下においてゐたぐらゐであるから、熱河の避暑山莊と共に離宮中の双璧をなしてゐた。

その位置は今の萬壽山の東二里ばかりのところに當り、康熙四十八年（西紀一七〇九年）に雍邸私園として賜はつたものを、雍正帝が踐祚ののち圓明園を營んだといふのであるから、約二百三十年前に始まつたわけである。

それ以來、この圓明、長春、萬春の三園は、咸豐十年（西紀一八六〇年）に英佛聯合軍の劫火にかかつて燒失するまで百數十年のあひだ清朝五代の治世に亙つて經營されたものであつた。

天を移し地を縮む

——雍正三年、大禮成るを告ぐるや園南に殿宇朝署、侍直の諸臣が事を治むるの地を爲り、池を鑿り泉を引き、田廬を闢き亭樹を増構し、規模愈々其の大を加へた——といふことである。

もとより圓明園は離宮とはいへ平常の皇居であり從つて政務を聽くところであつたから、園内に諸官衙を設けたことは當然である。併しながら雍正帝は、康熙帝の積極政策のあとをうけて緊縮政策をとつた君主だけに、その經營も實用以上には出でなかつた。

次の乾隆帝は、圓明園の南の方にある暢春園に太后を奉じ、自分は圓明園に住んで居られた。

乾隆九年には、圓明園の四十景を詠んだ御製ができあがつたが、その詩篇中にうたはれてゐる建築物は雍正帝時代の題詠中には見あたらないものなので、おそらく乾隆帝の治世となつて間もないその數年間に建てられたものとされてゐる。

いふまでもなく康熙、雍正、乾隆の治世百三十餘年間は、清朝文化の黄金時代であつた。殊に乾隆時代は、父祖の培つた國力を、最大限に發揮した最盛期ではあり、國庫には黄金が唸り、物資は豐富であつた關係上、園居土木の功も年とともに進んだことは想像に難くない。

その在世中、江蘇・浙江地方を六度も巡幸された帝王詩人乾隆が、全國に冠たる江南林園の勝に心をうたれ、御意に叶つた名園勝景のうち四十を選んで、圓明園の中に再現しようとされた心意氣も亦察するに餘りある。王氏圓明園の詞に「天を移し地を縮め、君が懷に在り」といふのは實にこの間の消息を物語るものであらう。

歐洲宮苑に倣ふ

清朝中葉西郊諸國位置圖



また乾隆十六年には、圓明園と、その南隣にある萬春園と共に三園とよばれてゐた東隣の長春園もみごとに竣功した。

乾隆帝は、自國の勝景を園内に移すだけでは慊らなかつたのか、この長春園の北部後方に伊太利のバロコ建築の式によつて遠瀛観や海晏堂その他の豪壮な歐洲式建築物を次々に建てていつた。

その材料は主として白大理石を用ひ建築の細密な部分にはルイ十五世時代の佛蘭西式を採用したといふから、如何に豪華壮麗を極めたか推察に難くないが、中にも噴水塔はこれら西洋建築物の中にあつて特に異彩を放つてゐたと傳へられてゐる。

この建築計畫に當つたのは、當時支那に在留してゐた、繪畫に造詣ふかい Pere Castiglione といふ伊太利人の宣教師で、水理計畫の方は Père Benoit といふ佛蘭西人の宣教師が擔當した。そして、施工はこれら外人計畫者の指揮によつて專ら支那工人がこれに當り支那宮苑の中に歐洲宮苑を現出したのであつた。

これらの建築物は、後に宣教師たちによつて繪畫に描かれ、或は模型彫刻に作成されたりなどして、今でもその一部は佛蘭西の圖書館に保存されてゐるといふことである。

英佛の北京進攻

英佛聯合軍が圓明園を燒いたのは二度目の北清征伐の時である。

咸豐七年末、アロー號英國國旗侮辱事件と佛國宣教師殺害事件で問罪の師をおこした英佛聯合軍は先づ廣東を陷れ、翌八年五月には北上して白河河口の太沽砲臺を拔いて天津にせまつた。

清朝政府では大狼狽の末、とう／＼天津で「天津條約」を結んで英佛兩國と講和したが、その翌年、つまり咸豐九年六月に英佛兩國の使節が、この條約の批准交換のため北京に入らうとするのを太沽砲臺で邀擊した。

そこで、英佛兩國は、再び清國を膺懲することに決し、滿一年後の咸豐十年（西紀一八六〇年）に大擧して北京城に攻め入ることになつた。

英佛聯合軍の總兵數約二萬五千人で英國のサー・ホープ・グラント中將と佛國のグーザン・ド・モントーバン中將がその指揮に當り、また是が非でも城下の盟を結んで清國側と批准を交換しようといふので、英國公使エルジン伯と佛國公使グロー男もこの遠征軍に加はつてゐた。

百數十隻の艦船に分乘した聯合軍はひとまづ大連灣に勢揃ひした上、同年七月末大連灣から北京に向けて出動し太沽附近に敵前上陸して北塘、新河、塘沽、天津を陷れ北京城へ肉薄した。

長髮賊の亂で武名をとどろかした蒙古（コルチン）科爾沁出身の勇將僧格林沁（サンコリンチン）が必死の防戰を試みたにも拘らず、これを張家灣・八里溝に打ち破つた聯合軍は十月七日には北京郊外の圓明園を占領したのであつた。

圓明園蹂躙さる

英佛聯合軍の將卒が、ゆく／＼掠奪行爲に出てたことは、當時從軍した英國通譯官ゼームス・スウインホー著「北支那戰爭記」に見えてゐるが、圓明園の掠奪放火のことも亦如實に記されてゐる。

聯合軍が圓明園に入つた時には、平常そこに起居して居られた咸豐帝は熱河離宮に蒙塵されたあとだつたので、園内には數名の宦官が殘つてゐただけであつた。

佛軍の無血占領直後、園内を巡視した北支那戰爭記の著者は、モントーバン司令官から園内の玉座について先づ「これは英國女王と佛國皇帝に分配す

るのです」と説明された。著者は、なほも博物館内の珍物を見學するやうな氣持で見て歩いたといふが、その時には室内はとり散らされてゐて「佛國の士官等この際すでにその欲する各物を選取するに及び金時儀其他有價の品物は忽ち彼士官等の懷裡に藏失しその神速なる實に驚くに堪へたり」とある。

また、佛軍の司令部に行つたところ園内から持ち出した絹布で華麗に裝飾してあり、士官たちは珍品を彼の前に持ち寄つてその値打をたづねたが、その中にはダイヤモンドをちりばめた時計や花瓶眞珠の首飾等もあり、後にその首飾を香港で僅か三萬圓で賣拂つたときいて「豈愚ならずや」と嘆じてゐる。

凄まじい掠奪

英佛兩司令官の再三の禁令にも拘らず、聯合軍兵士の圓明園の掠奪は依然としてつゞけられ、中には園内に放飼してある鹿や野鴨等を射つて狩獵に興ずるものもあつた。

——英佛の士卒は此處彼處を走り回りて財寶を奪はんとするの擧動賤しくして不體裁を極む、佛兵は多く重大なる棒を携へ來り奪取らんと欲すれども持去ること能はざる什物は棒を以て打叩き互に箱中の物を探り得んと欲して相爭ふものあり、又一室には美麗なる衣服を積みたるあり數人此室に競ひ入りて衣服を爭ひ奪ふ者あり。

——夏宮（圓明園）の右側に一庫あり絹布を貯藏す數十人之を破壞し爭つて庫内に入り價貴き布帛及び繡箔した る衣裳を奪ひ兩腕に抱へて庫外に抛げ出し積み累ねて諸所に堆かし掠奪人車を以て頻に運び去れども其餘猶ほ且つ庫中に殘れる物亦許多あり。

——ナピール將軍部下の士官數名は荒廢したる小舍の屋板黄色なるを見て誤り認めておもへらく是れ黄銅ならんと卽ち之を挽き取り共に擔ひ來れるに豈圖らん大約純金にして其價凡そ九萬圓なり。

——英佛諸軍の士卒はその談話する所皆圓明園に於て掠奪したる物或は掠奪せんと欲したる物の外に出でず佛國士官は掠奪に因つて大に富みたる者あり又其の士卒は互に銀貨を遣り取りして之が爲に陣中大方の混亂を生じ且つ此役の後數日間步卒道路に亂醉したる者常に絶えず往々掠奪の弊習を脫せざる者あり近傍の村落に亂入强盜する者も多かりき。云々

贓品の卽賣會

英佛兩司令官も、聯合軍兵士の掠奪行爲に手がつけられなくなつたので、佛軍側では掠奪品を軍の共有品として羅賣をはじめ、その賣上高を全將士に分配することとした。

また英軍側は、その本營であつた大喇嘛堂の書院に掠奪品を陳列して卽賣會を開いたところ「滿三日間士卒來つて之を縱觀する者甚だ多く珍貨を買はんと欲する者貴賤となく相競つて恰も狂人の如し其價賤しきこと昔譚の如し」であつたといふ。

陳列した物品はいづれも宮廷用の高貴なものばかりであつたことは申すまでもなく、青白及び白色のジエード石で造つた飾り物、古雅な金銀象嵌の陶器、古銅器、美麗な獸皮類、皇帝の禮服、綺羅錦繡の卷物等で、廉いものは二三十圓で、御服は一領一千二百圓に賣れたが、若し皇帝が外國人のつけたこの値段をきかれたら、嘲弄するにも程があると洩らされたであらうとスウインホーも言つてゐる。

この卽賣會の賣上高は三萬二千圓で他に分捕つた貨幣六萬一千圓を合せて九萬三千圓の中三分の二を圓明園占領に戰功のあつた士卒に分配し、三分の一を士官に分配した。併し、さすがにグラント將軍は自分の分け前も士卒に

分與したので、士官たちは合議の上、分捕品の中で最も美麗な黃金製の酒器一箇を贈呈した。

佛軍の糶賣も投げ賣りに終始し、殊に黑人兵などは、四五十圓もする絹織物を僅か一圓で手ばなすといふ有樣で軍隊相手の支那人の飲食店など、酒食を振舞つて安く品物を買ひ入れたりした。

——又其後數日の間玩物及び珠玉の賣買大に佛軍諸隊に行はれたり、始めて途中にて逢ひたる兵卒にても賣物ありやと問へば忽ち金造の時計珠玉を貫き聯ねたる紐ジェード石の飾物或は毛皮等を出す卽ち買ひ得べし云々

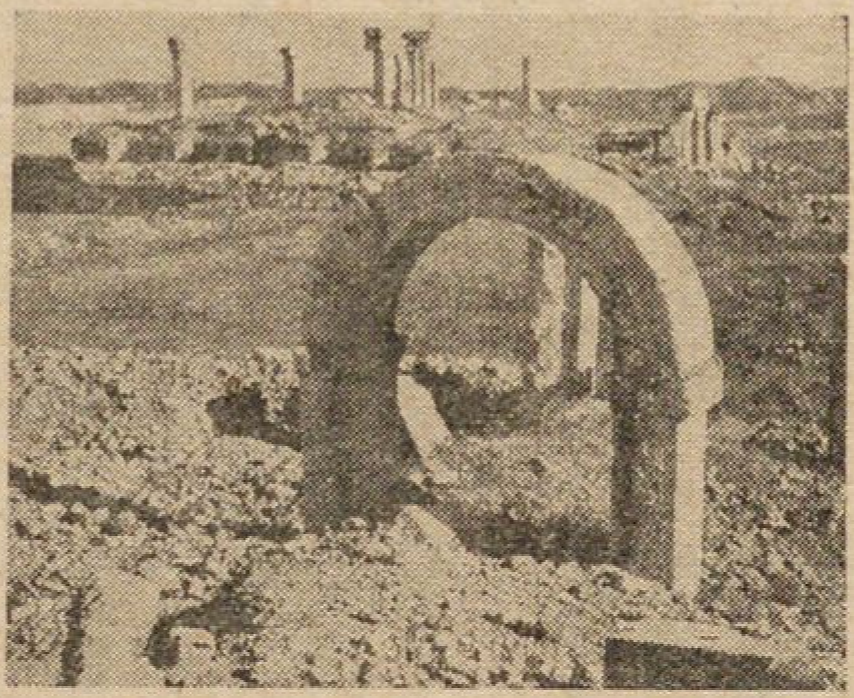
圓明園に放火

かうして圓明園掠奪は公々然と行はれ、百數十年に亙つて淸朝の財力を傾けて經營された圓明園もわづか旬日にして「被劫一空」に歸してしまつた。

さきに英佛兩軍の陣歿者遺族に對する弔慰金として三十萬兩を淸廷に要求した英國公使エルジンは、淸朝に對する積怨は到底金錢を以て償ひ得べきものではなく、假に一層多額の償金を要求するとしても淸廷はそれに應ずる能力なしといふので、最良の復讐の方法として圓明園の燒却を決意した。

そして彼は、彼の決意を正義づけて

——此の事理を明審し其關係の諸事を吟味せしに余今其犯せし罪狀に對し毫も復讐の處置をなさずして余が職分の全きを察するに非らざれば他の事を以て之を復讐するよりは圓明園の毀却を以てせば其障害最も少きのみならず其支那國及び支那帝の心に感激する事他



圓明園の廢墟

より想像する如き比にあらざる事を察知せしに因り斷然之を毀壞することに決定せり。この圓明園は支那帝の最も愛せし居住なりしに因り之を毀却する時は啻に其情意を攪亂するのみならず必ず亦其傲心を屈すべし——と公言した。

つまり「專ら支那政府の殘暴を我の憤る表徵として其の近隣に永久の戒となすべき事業を遺留して後日を懲らすの正に切要なるに至」つたため、支那側への見せしめとして、圓明園を燒拂ふことに決めた、といふのである。

そして十月十八日、圓明園燒打の命をうけたミチエール將軍麾下の第一旅團の軍隊はその日早朝その園宮に行き各部隊各々持ち場を定めて各所に放火した。

一大威嚇の所産

——既にして幾何ならざるに焰烟天に漲りて毀殿の事旣に始まり日刻の過ぐるに從ひ其烟增々大且つ密となり其烟雲墨を流すが如く北京に充滿しその景狀恰も迅雷の轟き落んとするに異ならず、この時宮殿の近傍に至りしに火勢劇烈にしてその聲雷鳴の如く日は黑烟を射て草木皆黃色を帶び且つその火焰閃々として諸兵の顏面に映ぜし景狀恰も諸鬼の相集つて此の擧を惜み歎ずるの狀に彷彿せり而して此夜は天氣溫暖なりしがその宮室の支柱皆燒盡し其の消煙を吐き出し實に凄愴を極めた。

この時には、園內のものは心の儘に掠奪してもよいと公然の許可があつたので、その猛焰を冒して園內を狂奔して目ぼしいものを探し步く貪婪な兵士の姿が隨所に見られ、或る者は英國の使節マーカツトネー卿が道光帝に贈つた二輛の馬車や英國製の大砲、天文學の諸機械等を引出して來たり、また第十五パンヂヤビース隊の一士官は一人で九萬圓に値する黃金を見つけ出したともいはれてゐる。

圓明・長春・萬春の三園が放火されただけではなく、翌十九日未明までに靜明園や淸漪園も放火掠奪された。

この一大威嚇によつて同月廿四、廿五兩日には恭親王と英佛公使間に北京條約が調印され、淸國はその場で遺族扶助料金五十萬兩を兩國に支拂つたばかりか更に英國に八百萬兩、佛國に六百萬兩の償金を支拂はねばならなくなつた。

英國が九龍半島を、また淸國と英佛軍との間を斡旋した露國が廣大な沿海州を獲得したのも實にこの時であつた。

ヴエルサイユ宮殿にも比すべき圓明長春、萬春三園は、今は灰燼に歸して往年の壯麗を偲ぶべくもないが、乾隆年間に勅命によつて畫かれた圓明園全圖八十幅は、現に佛國の國立圖書館に藏されてゐるといふことである。この書幅が、八十年前の燒打の時、珍器名寶と共に掠奪されたものであることも亦贅言を要しないであらう。

萬事不徹底主義

石原巖徹

支那人の處世方針は萬事不徹底主義である。これが果して好いことか悪いことか、簡單に斷定するわけには行かない。ものごとをつきつめないことは學術的の問題の場合確かによろしくないが、社會上の問題の場合必ずしも悪くないことがある。例へば或人が罪過を犯した場合、それがために損害を被むつた側の人は、一應その罪を咎め、賠償——必ずしも物質に限らない——を要求することはするが、徹底的に追求することはしないで、大抵の場合多少のゆとりを殘して置く。これなぞは人間が社會生活を營んで行く上に極めて妥當なやりかたである。ジヤンバルジヤンに於ける警官某の如き執拗さは彼等に無いのが通則である。但し執拗性といふ問題は、こゝに云ふ不徹底主義とは別の意味に於て語るべきものがあるが、それはこゝには觸れない。

「君子は物に凝滞せず」と云ふ先哲の言もある通り、他人の罪過や、言うて効無き過去の失敗等に對し、追及したり、つきつめて考へたりすることをしないのは確かに良德である。これは今日意識的にでなく殆ど習性的に彼等の間に慣行せられてゐるものである。然しながら反面に於てこの主義は所謂進歩の障碍をなしてゐるとも言ふことができる。卽ち物事をいゝ加減にして置くことであつて、これが國家としての支那の發展をどれだけ妨げてゐるか判らない。殊に科學的方面に於てこの弊が甚しい。吾々が支那の色々な問題を調べようとする時、最も痛感するのは文献の貧弱なことと支那人自身支那の事をよく知らないことである。空虚な——と言つて悪ければ抽象的な——言説に關する文献は少なくないが物事を具體的に說明したものは非常に少い。よしあつても記述が甚だ杜撰且つ無責任である。例へば或る行事に關する說明を見ても、何といふ書物にかう書いてある、誰がかう言つたと云ふやうなことを引用するだけで、本人の調査や研究による所は少しも書いてない。これはその行事に對して本人が多少の興味や關心を持つてゐながら、徹底的にそれを調べて自分の納得の行くまでやるといふことをしないからである。從つてその行事が現在どうなつてゐるものやら少しも判らない。卑近な話を言へば支那料理の場合色々な山海の珍味が出るので、吾々はその材料に對して、どこで獲れてどんな形をしたものか、どの部分かといふやうなことを知りたがるのであるが、彼等はさうした日本人の質問に答へ得ないばかりでなく、餘り問ひつめると嫌がる。彼等は自身の生活に直接影響の無い問題に對しては敢て知ることを求めないのである。科學の貧困は支那の大きな弱味であるが、その原因は實にこの物事をつきつめて考へることに興味を持たないといふ性質に在ると思はれる。この性質は一面に都合の好いこともあるので、支那事變の解決などはこの性質を利用して案外容易に一應の目的を達し得られるのではないかと思ふ。若し彼等が物事をつきつめて考へる性質であつたとしたら、あれほどの抗日思想をそんなにたやすく轉換せしめ得るわけはあるまい。抗日思想そのものが本來つきつめて考へた上の所產でないのだから、その轉換もそれほど難事ではないわけである。支那の事はかうした點も頭に入れて考へる必要があると思ふ。

支那建築の話

屋根の曲線

村田治郎

反り上つた屋根の曲線は支那建築様式の最も顯著な一特徴だが、それは何時ごろから現はれたものであらうか。

雲崗の石窟をはじめ多くの北魏時代頃の彫刻類に見える建築の姿には、まだ後世のやうな強い曲線がなく、かすかにそれと思はれる程度のものに過ぎない。それで屋根の凹曲線は六朝時代の末頃から唐時代の初期、つまり六世紀末から七世紀初め頃に出現したのだらうとの説が一般に行はれてゐた。

ところが昭和の初年に河北省涿縣永樂村の東禪寺にあつたといふ石佛が、東京の大倉集古館に購入され、その様式が北魏よりも古く後燕の頃、即ち五世紀の初期のものだらうとさへ言はれて學界を驚かしたが、その石佛の光背にひどく反り上つた屋根の家が刻まれてゐたので、凹曲線の使用が當時既に行はれてゐたと見られるに至つた。しかし一方ではその反り上つてゐる屋根と見えるのは、實は普通の屋根の端に蕨のやうな巻きついた裝飾がつけてあるに過ぎず、凹曲線屋根を示すのではないと反對する學者もあつた。

私は支那の古い文獻を捜して、凹曲線と認められる文字が後漢頃から盛んに使はれてゐるから、凹曲線は既に二三世紀頃から存在しはじめたのだらうといふ説を出した。昭和四年末に旅順郊外の南山裡の古墳を東亞考古學會が發掘して發見した遺物の中に、明に折れ曲つた反り屋根を示す漢式の瓦製家屋模型が見出されたのである。尤もこの例とても製作のときに偶然の過ちから屋根を折れ曲らせたのだらうとも言へるから、確證とはならないといふ反對があり得るわけだが、現に北魏時代に屋根を反らせたことを示す彫刻も近年發見されてをり、私はかうした例が今後次第に發見されて來て、文獻に見るやうに遲くも二、三世紀には凹曲線屋根が一部では使用されてゐたことを證據立てるものと期待してゐる。

◇

反り上つた屋根はどういふところに起原があるのだらうか。これがまた非常に難問である。

誰でも直ぐ思ひつくのはテント屋根の形をまねたものだらうとする説であり、この説は早くから歐米人が主張してゐるが、同時にまた支那の歴史を熟知してゐる歐米の學者は、支那民族はまだ屋根に凹曲線を用ゐない太古から純然たる定住的農業生活を營んでゐて、天幕生活とは何等關係がなかつたのだから、天幕の形が凹曲線屋根に直接むすびつく筈がないと反對した。

また支那民族自身の天幕ではなくて遊牧生活を未だに續けてゐる周圍の民族のテントから學んだのだらうとも思はれるが、それに對しては蒙古民族の移動式住家が半球形の包(パオ)であり、その影響だといふなら、むしろ凹曲線ではなく凸曲線に支那屋根がなつてゐた筈だと言つて反對した學者がある。

支那の周圍の遊牧民族は北と西とにゐるが、支那の凹曲線屋根は北よりも南ほど強いのを見ても、遊牧民族のテントと關係ないことが判ると言つた人もある。この南ほどひどく反り上つてゐる點から、南方支那に多い竹を屋根構造に使つたことに起原があらうと主張する人もある。成程南方支那方面には竹だけで出來た屋根が屢々あり、少し重い材料をのせれば凹曲線になりさうだし、中々よい思ひつきである。

しかし竹構造による屋根が、印度では却つて凸曲線形の原因になつてをり南支に多い蛋民族の舟に設けた屋根が半圓に近い凸曲線になつてゐる點などを考へ、また竹構造が必しも支那建築では普遍的でなく、僻遠の地で行はれてゐたのに止まることをも考へて見ると、これが原因になつて凹曲線屋根が生れたとは認め難いやうである。

中には更に突飛な説を出した人があつて、それはヒマラヤ杉の枝が凹曲線になりながら少し垂れさがる形をまねたといふのである。支那内地にそんなヒマラヤ杉のやうな樹木が一般にあつたとは思はれず、樹枝の形から屋根の形が生れるとも考へられないことは詳しく述べるまでもない。

今までの説よりもやゝ有力と思はせるのは構造上の必要から自然に生じたといふ説である。支那では雨期だけに一時に大量の雨が降るので、屋根は傾斜を急にするのであるが、しかし大きな家になると奥行きが深いので、中央部だけは高く急な傾斜にするけれども、そのままの傾斜では窓が十分とれなくなるので、次第に軒先きに近づくに從つて傾斜をゆるくする必要があるから、それで棟の方から軒の方へと段段ゆるい傾斜にするが、折れた幾つも

の直線はみにくいので全體を一つの凹曲線にするやうになつたと説明するのである。

建築の根底には構造法が最も重要な役目をもつのだから、かうした構造に要點を置く説は強い魅力を感ぜしめるが、これを歴史の上で見ると、支那の古い建築は屋根の傾斜がごくゆるいのが普通で、近世のやうに急なものは殆んどないのである。また支那で一時に多量の雨が降るといふが、これは支那以外の國、例へば印度とか南歐、その他熱帶諸國でも認められるから、支那だけがどうして凹曲線になるやうな道をたどつたか説明がつかない。

伊東忠太博士は右のやうな諸説をしりぞけて、屋根を直線にするよりも曲線にする方が美しいと考へたからで、これは支那民族固有の趣味に基くと説明すべきだと言はれた。これは卓見で全くその通りであるが、趣味といふことを言ひ出せば、現在支那で行はれてゐるもの總てが趣味に基くので、嫌なものが永く續く筈はないのだから、屋根の曲線だけに限らない一層廣い原理にすぎまい。好きだつたから流行したには相違ないが、それだけでは未だ凹曲線屋根の發生した起原を見出したとは言へないと思ふ。何物かがヒントを與へて始めて凹曲線が好きになる筈であり、最初から好きだつたといふやうな天降り式の嗜好は考へられない。それは支那の凹曲線が後漢時代頃から漸く始まる點を考へても明かである。

◇

以上の諸説には一長一短があり、これこそと採りあげることの出來るものがない。そこで私は右の中の長所だけを採つて一説を考へ出した。

起原の第一はテントの形と考へる。今までの人は太古の支那民族とか周圍の蒙古族などのテントを考へてゐたから話がわからなくなるのだが、私は支那民族が昔から現在まで使つてゐるテントを注意したいと思ふ。昔から儀式を行ふときなど臨時に大テントを張るのが普通のことで、宮中などでは錦繡のテントを用ゐたものである。今でも露店商人がテントを使つてゐるが、あれは西洋から學んだのではなくて昔からの習慣を墨守してゐるのである。

先年ボストン美術館で面白い繪を見ることが出來た。それは文弱な支那政府の犠牲となつて、朔北の異民族の王のもとに嫁してゐた文姫が支那へ還つてくる光景を畫いたものだつた。繪は宋代つまり十世紀末乃至十三世紀初の間の作だが、內容は後漢の末三世紀初のことである。それにテント張りが出てゐて、しかも形が反り上つたところは支那建築そつくりである。こんなものが恐らく後漢時代よりもつと昔からあつたのであらう。

テントを屢〻つかふところから凹曲線がすきだといふ趣味が生じて來る。これが第二段目の起原であるが、しかしいくら凹曲線がすきでも構造が發達しなくては、それを外部に表現することが出來ない。それで第三段目に構造の發達といふのを起原に置きたい。こんな風にして次第に凹曲線が出來上つたのだらう。さうして凹曲線をつかひはじめたのは、宮殿とか宗教的建築のやうな大規模なものだつたが、それが段々一般にひろまつたのだらう。私の考へてゐるのは、こんな一種の綜合的な多元論的な説である。

支那建築が構造的に非常な發達をとげたのは西紀前三世紀の秦時代ころからであらうから、假に右のやうな理由で屋根の曲線が出來たものとすれば凹曲線が實際に用ゐられはじめたのは後漢よりももつと昔の前漢時代、すなはち西紀前一、二世紀頃までもさかのぼれるのではないかとさへ私は想像してゐるが、もとより目下のところその證據は見出せない。

部落の墓



みづの・かほる

北支の農民は、祖先の墓を大切にする。墓地は、同族が分家しても共有である關係上、この墓をめぐつて、同族の血緣をいつまでもこまやかに續けて行く。春の清明節と、十月一日には、同族のものがこぞつて墓地を清掃し、墓參りをして、同族の親睦を圖る。中には祖廟をもつてゐて、毎年一回祭祀を行ふものもある。

祖廟をもつてゐるものは、昔は相當の豪族であつたものに多い。これらはある時代に、同樣に同族の分封的發展によつて、他地方に部落を形成してゐるものもあるが、そのうちの裕福なものは、年に一度のこの祭祀に、遙々同族の故鄕である發祥地を訪ねて、祖廟に祈りを捧げる。

部落の同族の本家には、大抵家譜と言つて家系圖をもつてゐる。豪族になると、何十年に一回位、同族中の有力なものが集つて、この家譜を編纂する農村調査に當つて、筆者は屢々この立派な家譜を家寶として備へてゐるのを見せられ、北支の農民が如何に祖先の歷史を誇り、同族相結ぶ力の強いかを敎へられたことである。

彼等はまた、如何なるとんまな農民でも、開祖から數へて、自分が何代目であるかを知つてゐる。物知りになると、更にその開祖が、どの時代に、どこの地方から移住して來たことさへも知つてゐる。

筆者の乏しい調査の經驗によると、北支農民の一世代は、大體平均二十年前後と見て間違ひないやうに思ふ。そこで代數が分ると、これに二十年を乘じたものが、その家の年數と見てよい。同樣に、部落調査に當つて、部落の最も古い同族の本家を尋ねて、その世代數を聞けば、その部落の歷史も亦自ら判明するわけである。

墓は、初代の墓から順々に同代のものを、同列に埋めてゐるのが普通であるが、中には順序不同のものもあり、また一般には石碑を建てないので、五、六代前になると、何んの某であるかも判らぬ場合が多い。

墓は圓錐形の土盛りとなし、所謂土饅頭型とするのであるが、その高さは四尺、墓底は直徑一丈五尺位のものが最も多い。夫婦は一つの塚穴に埋めるものが多く、妾が二、三人もあるととてつもない大きな塚が出來る。

何れにしても、初代の墓は大きい塚にして、同族のものはこの塚を開祖の墓としてあがめ奉る。墓が古くて、塚の數の多いのは古い族で、後裔の榮えたことを意味するもので、同族のほまれであり、誇りとされてゐる。

しかし墓も場所が狹くなると、地所の關係から、同族のものでも仕方なしに墓場を別につくる場合がある。墓地を選定する場合は、所有耕地の最もいい土地をこれにあてる。よい耕地を墓地にすることは、祖先への報恩の道であり、又佛がその地を守つてくれるといふ考へから來たもので、ここにも北支農民の土地崇拜に對する心情が遺憾なく現はれてゐると思ふ。

農民は、如何に貧窮しても、墓地の附屬耕地は、先づ斷じて賣ることがないと言つてもいゝ位で、この土地を人手に渡すことは、もはや農民道德のらち外にあるものだとされてゐる。

又墓地には、好んで柏樹を植ゑ、その他松、ドロノキ等を植ゑて、墓地の美化を圖り、森嚴さを添へてゐるが、この樹木を伐採するわけには行かない。

部落民は、死んだら己が部落の同族の墓地に埋れて安かなる眠りを希ふ。このことは日本人でも同樣であるが、彼等はむしろ絕對的のものである。それに彼等は火葬にしないのだから、遠方に行つて死んだ場合などは、誠に厄介千萬である。しかし彼等の慣習は破產しても大きな運送費をかけて故鄕へもち歸るのである。

彼等が、この世を終つたら、己が同族の墓地に埋りたいといふ氣持ちは、蓋し部落が同族の鄕土なるが故にこそ一層切實なのである。まことに血緣部落の釀す美しき鄕土愛は、北支農民のもつ至上の道德であるのである。

以上は同族の墓地であるが、義地或は捨墓田と言つて、一種の共同墓地がある。都會の周邊には、この義地があつて棺を故鄕の墓地に送ることの出來ない貧乏者や、新しい墓地を求めることの出來ない貧乏者は、こゝに心ならずも埋葬する。

部落にも亦この種の墓地があつて、同じやうな意味で利用され、又十歲以下の子供は、親に先立つ不孝者として、己が墓地に列することが出來なくてこゝに埋められる。捨墓田の名もこ

こから出てゐるのである。
この義地或は捨墓田の地所は、その昔有力な人士が義擧によつて、衆人のために提供したもので、義地の義はこれから名付けられたものである。
さて、部落の墓地は、彼等の歴史と生活の上に、かくも意義深いものではあるが、筆者は農業技術者の一人としてこの墓地に、少しく苦言を呈してみたい。
第一に、土葬による風習を改めて、耕地不足を少しでも緩和したい――古い部落へ行くと、この墓地の占むる地積は、全耕地の五、六%にも及んでゐるものさへある――。
第二に、墓地は、草地となつてゐることから、これが雜草の種子や、病菌害虫等の巣窟となつて居ること。
第三に、土葬を火葬に改めることが困難なら、墓地の利用を考慮したい――例へば、耕起して塚の周圍を耕作するとか、或は耕起しないのなら、雜草をルーサン等にとり換へることもい。或は又、植林してこれを伐採利用するやうに改めること――。
でもこんなことは、なか〳〵急には改められないことであらうが、爲政者も、農村指導者も、そして農民自身も、いつかはこんなことに氣づく時が來ると筆者は思ふのである。否すでに、心ある農民は、無制限に殖えて行く墓地を抱へて、餓死する時が來るだらうとさへ言つてゐる。まことにこの墓地こそ、宿命的慣行の裏に見る部落の一悲劇ではある。
墓のついでに、すこし葬式のことを述べて見よう。北支の部落では、老人が漸く衰弱して死が間近かになると、棺と壽衣を用意する。老人は、この用意された棺と壽衣を眺めて、あの世へ旅立つ準備が出來たと言つて安心をする。生前この棺と壽衣の準備は、中流以上の家庭でなくてはなか〳〵に手廻しが出來ない。貧乏者は息の根が切れてから、あわてて棺をしつらへ、壽衣を買ひに街へ走る。
葬儀は又極めて大げさなものである。あまり形式に流れて、却つて敬虔さが失はれてゐるやうに思ふ。部落には、和尚や道士が居ないので、一般農民の葬儀には念佛をあげない。吹手と言つて一種の樂隊を雇ひ挽歌の曲を奏して葬儀の氣分を旺溢さすのである。
庭へは大きな小屋掛けをして、出棺するまで同族のものが集つて、喰つたり飲んだりして騒ぐ。出棺埋葬は、死後七日目に行ふのが普通であるが、裕福な家ほど日を延ばし、甚しいのは三週間位も家にとめて騒ぎをつゞける。酷暑の候など、死體が腐敗して棺の隙間から汚水がにじみ出て、臭氣屋内に滿つる光景は、敬虔どころかむしろ凄慘である。
とにかく、金をたくさん費つて、大げさにするほど、死んだ親への報恩の道であり、又面子がいゝのである。裕福な家で、もしこれを簡略に片づけてしまつたりすると、それこそ世間の口がやかましい。
棺にしたつて、木材に乏しい北支の農村でありながら、四寸から五寸厚みの板で、必要以上の材をつかつて造る。柳よりは松、松よりは柏と、出來るだけいゝ材を選ぶのが、世間ていがいゝのである。棺一つが柳だつて二、三十圓はかゝる。柏などになると、數百金を投じなくてはならぬ。かういふ風だから一度親の葬式でも出すと、貧農では、十年はうだつがあがらぬ。
農村調査で、借金の使途を調べて見ると、葬式の費用を借り入れたといふのが目立つて多い。かうなると、親孝行にも程がある。尊族を敬ひ、祖先を尊ぶ彼等の心情は、誠に見あげたものであるが、分に過ぎたこの陋習の改善は、農村更正の上に先づ最初に手をつけなくてはならないものであらう。



北京のお茶菓子

黄子明

大薄脆

西直門を出て、萬壽山街道を五、六丁ゆくと、廣道寺の南に億祿居といふ田舍臭いくすぶつた茶館がある。そこで拵へて賣つてゐる大薄脆といふお菓子は、康熙三年以來二百八十年の由緒ある名物である。

直徑二寸あまりの圓形煎餅に似て、身の薄きこと紙の如く、兩面に白胡麻がつき、恰好は全く違ふが、その焦げたやうな色合ひと舌に觸る感じが、ちよつと京都の八橋といつたあんばいで八橋ほど綺麗な出來あがりではなく、見かけは甚だブザマでいかにも柳並樹の街道筋の菓子だが、風味はとてもしやれてゐて、名物に旨いものなしの諺を遠く突破してゐる。

もともと本當の名があつたのであらうが、薄くつて脆いので、いつの間にかそれがお菓子の名稱に變つてしまつたものらしい。傳へ聽くところに據ると、康熙帝が或日おしのびで萬壽山へ遊びにゆき、その途中この茶館で一服召されて、澁茶飮み〳〵このお菓子を召上つたところその風味が殊の外御意に叶ひ、その後宮中に納めさせて時折御賞美になり、また道光帝も大層これがお好きで時の士大夫間にひろく流行り出したものだといはれてゐる。

羊羹やドラ燒きの甘いものに飽きて何か一風變つた素朴な淡い風味のお菓子をといふ茶人たちには、きつと珍重されるに違ひない。

酸梅糕

これは夏の間だけのお菓子。

梅形、作りは落雁風、麥こがしを酸梅湯で練つたもの、梅の香のゆかしい落雁と思へばいゝ。

綠の涼しいお座敷か緣がはで、若茶一服この菓子一つ、誠に風情に富んだ味ひである。雅を味へないガサ〳〵者には、このお菓子は喰べさせたくない。

去年の夏、知雅の人として心常に敬ふ華北交通會社資業局の加藤次長にこれをお贈りしたところ、その後幾日かたつてまたお會ひしたら「あまりいゝ風味なので、福岡に歸つてゐる家內へ早速送つてやりましたよ」との御挨拶、嬉しかつた。

加藤さんの奧さんは、茶道趣味ゆたかな方である。

奶捲

牛乳を凝固らせて餅のやうにし、それで胡蔴餡などを鐵砲まきのやうに捲いたもので、若しこれを銀座あたりでナイチョワールとでも片假名名前で賣出したら、恐らく大當り間違ひなしと思はれるほど見ばえも風味も新時代の尖端を走るハイカラ珍菓である。

だが、このお菓子は決して新製のものではなく、遠く元の時代の乳菓が、長い月日の下に、都の製菓技巧でかう進歩したものぢやないかと思ふ。

程のいゝ甜さのうちに淡い乳酸味を含み、更にそれと餡との交錯味のお美味しさは何んともいへない。

漆ぬりの小型の木皿に三つぐらゐ盛つて出すと實に品もいゝ。

この前本誌で略の店として東安市場の豐盛公を御紹介したが、この店の奶捲はやつぱりNO・1である。

蜜餞

杏、桃、梨、棗、リンゴなどの果物を蜜で煮て、それを適度に乾したものを蜜餞といふ。

安蜜餞は砂糖蜜、上物は蜂蜜を使ふ。

見かけは黑ずんで綺麗ではないが、風味珍にして絕佳。北京の一名物としてこれをおみやにする日本人が多い。

併し同じ名物でも、桃や梨やリンゴなどの蜜餞は、ネタそのものが珍らしくもないが、棗の蜜餞とくると、斷然出色の珍味である。

棗は日本には至つて尠く、從つて棗の見聞頗る狹く、棗といふと、葡萄ぐらゐの大きさにしか思つてゐないが、北支の棗就中河南の靈寶のものの如きは、大きな杏よりももう一廻はりも大きく、北京の家々の庭先に植ゑてゐる普通の棗でさへ、幕下力士の親指ぐらゐはあり、とてもいゝ風味だ。

この大棗の蜜餞は、それだけでも珍しくかつ美味である上に、更に松仁(まつのみ)や核桃(くるみ)を餡に入れた松子蜜棗や核桃蜜棗のやうな蜜餞になると、全く頰ペタが落ちるやうなお美味しさである。

七、八年前のこと、東京の贅澤菓子屋として茶人間に名高い千本の御主人松本さんにこれを送つたところ、たいへん賞められたことがある。

北京で蜜餞の名だいな店は何んといつても前門外大柵欄の聚順和を推す。

可園雜記

加藤新吉

開封は春秋の鄭杞兩國の地、戰國の梁、秦漢の開封縣、降て唐の汴州、それから北宋の首都開封府。此處の古物陳列所には新鄭縣出土のすばらしい古銅器の一群があつた筈、私は事變後ここに赴任する舊知の軍人に其保存方を賴んで置いた。ところが既に無いとの返事であり、私自身行つた時も勿論影も形もなかつた。が他の貴重な蒐集品がそつくり殘つてゐたのは實に望外の喜であつた。

北魏、隋、唐、五代、宋、明、清に亙る各時代の墓誌、題跋、石經、塔銘勅牒の類がそれ。而もそれは特に作られた衝立樣の壁面に嵌込まれてぎつしり二棟を埋めて居る。他に北魏の石佛及石棺、開皇の銘ある隋の四面佛等もある。凡千五百年來の書の變遷は此二棟を見るだけで素人にも判る。蓋し西安の碑林と共に文字の寶庫、奉天圖書館と共に墓誌銘の雙璧、武英殿の陶瓷及太明湖畔の畫象石と併んで北支の三大蒐集に數へ得るであらう。

開封の雄大な城壁に敎へられることは、城壁が民を守り敵を禦ぐ、その敵には水や砂も數へねばならぬといふことである。現に開封の城壁は砂を防いでゐる、にも拘らず、砂は風の力を借りて既に北西部の城根を埋め又日毎に城壁を乘越えて內側を埋めて居る。開封から京漢線の新鄕に達する新線、所謂新開線一帶には黃河が作つたと思はれる砂原が多い。新開線が橫ぎる舊黃河、といつても昨今水が南流したばかりの河床には、無數の砂丘がめざましく發達して居る。

朝に開封を發つた旅客は當分嫌でも新鄕に泊らねばならぬ。私は開封と新鄕と彰德とに泊つたが、各地とも多數古代の磚や瓦器に接した。開封では長大な漢の磚を入口の踏石代りにしてゐる古物屋を見た。圖は唐草で緣どつた中に天馬戰車を挽く一列の帶模樣であつた。彰德近郊の棉畠ではそれこそ無數の瓦器の破片を踏んで步いた。彰德は古の鄴、魏の曹操の都、銅雀臺の遺址も遠からずといふ。

新鄕の北の衞輝府は殷の朝歌、周の衞、戰國には魏に屬した。彰德の北の邯鄲は春秋に衞と晉に屬し後に趙の都になつた。其北の順德は殷周の邢で春秋には晉、戰國には趙に屬した。私がかくうるさく昔を穿鑿する所以は此附近が漢族發祥の地、尠くとも文書歷史の初頭を飾る殷の故地であり、春秋戰國へかけて興亡華やかなる舞臺だつたことを偲ぶ爲である。

車窓左に見るは大行山脈の山裾をなす丘陵地、右は河南河北の平野。古墳と覺しき幾多の堆土が見られる。部落は概ね南に小川を擁して必ず高い望樓をもつ。例の雞犬の聲相聞ゆといふのは此等の邑を指したのであらう。或時代には此等の少し大きなのが邦とか國とか云はれ、其權力者は侯とか伯とか呼ばれたのであらう。そして戰つたり和睦したりしたのであらう。

作物は小麥ならずんば棉。畠は丹念に小さく劃られて居る。これは灌水の爲だと思ふ。畠の隅に必ず井がある。北支の地は洪水の患がなければ旱魃の憂がある。作物の稔を願へば灌水の勞を吝む譯に行かぬ。だから田の橫に井がある、之を字にすれば畊（たがやす）である。耒で土を起して井水をそゝぐ、之を字にして耕である。思ふに此等の文字は此地方で出來たもので南方のものではない。

傳書鳩

本年の入満苦力 百四十萬と想定

満洲工業界の躍進と土木建築業界の繁忙に伴つて、北支からの満洲出稼ぎは年々激増の一途を辿つて來たが、本年度は昨年に比し五十萬を増加、百四十萬と想定されてゐる。華北交通天津鐵路局では、このうち七十萬人を山海關經由で輸送するため對策檢討の結果、最盛期を二月一日から五十日間と見て、大體一日七千名最高八千名を目標に輸送計畫を進めてゐる。これがため、津浦線では二月早早二十二輛の客車を増結するほか、昨秋來の實績に鑑み、滄縣、天津間の水路運送陣を強化、臨時四艘を増發し、更にこれに民船、傭船を加へて一日二千名を目ざして二月下旬から水陸呼應の輸送に乘出すこととなつた。京山線では十六輛の貨車を増結するのは勿論天津、奉天間の運休列車の四〇七、四〇八兩列車の復活をはじめ北京、唐山間の五〇五、五〇六列車を復活して山海關まで延長し、奉山線列車と接續輸送をなすなど結局客車は九十輛機關車は五輛、乘務員は七組（一組九名から十名）を増配して萬全の輸送陣を張つた。

北京の食料品價格 一年に二倍半昂騰

北京の魅力は何か？ 樹木の多いこと、水の豐富なこと、甍の美しいこと——人によつて北京のよさは色々に言はれるが長くこの土地に住む老北京の北京への魅力は、物價が安く暮しが樂だからだと言ふ。ところが、事變第四年の北京は、暮し良い北京生活の根柢を打ち碎いてしまつた。住宅難については前にもこの欄で語つたからいまは觸れない此處では進出邦人の毎日の食膳に關係の深い總菜類について値上りぶりを拜見しよう。

北京の食料品雜貨は特殊品を除くほか、現在までの輸入の路筋は大抵天津の問屋筋を通ぜず、少量ながら個々に直輸入が行はれてゐる。だから商品によつて天津相場と關係なく北京だけの市價を持つてゐるものが少くない。値上りの目立つものは資材不足の關係から特殊包裝とか特殊容器を要するものの市價で、なかにも罐詰の類は罐材料の高騰と入手難から昨春に比較して二倍、二倍半ととび上つてゐる。また味噌、醤油その他の必需品は、容器、包裝とはまた別個に不足品から高値を呼んでゐる。現在北京の食料雜貨商は百三十戸を數へてゐるが、全般的に商品の入手難を訴へてゐる。その結果、最近これを統制して輸入取扱ひを一元化し個々商店に商品の偏在を緩和するやうに協議が進められてゐる。最近の市價を、北京日本商工會議所調査（二月上旬小賣物）によつて次に摘記表示しておく（單位、圓）

豆腐	一ケ	・一〇
澤庵	百匁	・二八
乾海苔	一帖、	四〇―・七〇
鮪	百匁	二・〇〇
宇印白糖	〃	・八〇
食鹽	〃	・三五
キッコー萬醤油	一升	一・四〇
味噌	百匁	・一八
グリンピース	一罐	・七五
蟹	〃	一・〇〇
正喜撰	一斤	三・五〇
青柳（茶）	一袋	・六五

北京の教壇へ招く 先生百人に及ぶ

四月の新學期から北京の教育者數は、一躍現在の二倍に増强される。これは新入、轉學兒童の激増と、これに伴ふ學級の飛躍的増加と商業學校の新設などによるものだ。目下民團を通じ總領事館から内地各縣、師範學校當局にその斡旋方を依頼してゐるが、その人員は小學校教員七十八名、女學校教諭十二名中學校教諭三名で、合計百名に上つてゐる。このうち學校教育は、教育感覺の新鮮をとる立前と、經驗尊重の立前の二方面から採用方針を決定、大體本年四月師範學校卒業生三十名、二三年教鞭をとつた優秀なもの四十七名の割となつてゐる。進出邦人子弟の教育問題は、日本の大陸進出政策遂行の上から見て頗る重視せられるところ、現地の學校教育が惡くては、教育尊重の邦人を現地に長く止めることが出來ない。そこで現地招聘の先生達の手腕、人格に就ては充分の考慮が拂はれてゐるが、目下教育者の不足をつげてゐる內地で、果してこの現地父兄の希望が滿されるかどうか。

北支の開發と自動車路線の躍進

今日の合衆國は、初めには河蒸氣により、ついでは鐵道によつて作られた。これらのものがなかつたならば、現在の合衆國といふこの尨大な大陸國家は全く不可能であつたらう。——これは、ウエルズが「世界文化史概觀」に於て、アメリカ今日の發展について語つたところ。このウエルズの言葉はそのまゝ新生支那建設途上の鐵道の使命について當てはまる。所謂地大物博に於て北米合衆國に立ち優る支那大陸が、その國家の繁榮を鐵

道の發達に俟つところは合衆國のそれより更に切實である。ところが、現在の支那鐵道の延長は同一面積に對する割合で米國や日本と較べると、それらの約五十分の一、お隣の滿洲國と較べても六分の一にも及ばない。かくの如く支那の鐵道が土地の廣大、人口の饒多、資源の豐澤と反比例して未發達であることは、東亞新秩序建設途上の第一の障碍とせねばならない。と云つて、現在直にこれを三倍五倍に延長することは資材不足の折から甚だ困難である。かゝる事情の下では自動車交通が大陸交通に對して占むる役割は高く價値せらるべきである。現在、北支蒙疆の鐵道、自動車、水運の綜合運營に當つてゐる華北交通會社は、かねて鐵道の足らざるを長途自動車によつて補足する立前から、自動車網の完備と伸長に努めて來た。その躍進は昨春五千キロの延長が本年二月末現在約一萬キロに及び、これに蒙疆を加へると一萬五千キロを突破する。

最近惠民（山東省東北部）—青城（惠民の南方）間の四六キロと、慶雲（河北省東南部）—惠民間の五一キロの新路線が開設され、既設路線との連絡成り、こゝに北支自動車網の大幹線が形成された。これは京山線唐山から北京—天津—滄縣—惠民を經て膠濟線張店に達する線（北京起點五二九キロ）と北京から天津—滄縣—惠民—濟南—濟寧を經て、荷澤（山東省西南部）に達する線（九〇九キロ）であるが、更に唐山から北京—天津—滄縣—惠民—濟南—濟寧—荷澤のコースをとれば、河北省の東北端から山東省の西南端まで、全長一、一二七キロの連絡が出來るわけで、大陸開發の一動脈としてその意義は極めて大きい。

新車輛會社の設立と輸送力の增强

華北交通會社の輪轉材料ならびに輸送施設の强化擴充は、大陸交通の開發があらゆる產業興隆の先驅前提となる關係から最も焦眉の急と云はれて來た。就中、對日輸送の大宗を成す石炭の港灣向輸送のために、口泉—塘沽間五百キロの複線工事の完成その他各線の施設强化は最近日本に於ける石炭飢饉の實情に鑑み、益々急を要すると見られるに至つた。

從つてこれまで、日本、滿洲等に發注しつゝあつた機關車、貨車、客車の製造實績では、到底かゝる新事態に副ふを得ないこととなり、各方面から現地車輛會社の設立が要望されてゐたが華北交通會社の主唱の下に同社、ならびに彌生會に屬する內地滿洲に於ける有力車輛メーカー等の大同團結によつて近く設立されることとなつた。新會社の資本金は約五千萬圓、營業開始は三月上旬と見られてゐる。

いま華北交通會社の要求する車輛數を、前記の口泉—塘沽間について見ると、三年後の豫定計畫たる大同炭を年一千萬トン對日輸送するためには、一日三萬トンの石炭輸送確保を目ざさなければならない。それがためには、約四千車近くの貨車群を必要とするものであつて、更に現狀の貨車不足を補ふためには、この數字は一層大きなものとなる。かゝる厖大な需要に應へての新車輛會社の設立は蓋し注目に値ひする。

數十萬の人出を見た琉璃廠

北京の琉璃廠は今年の舊正月も相變らず初市が立つて、數十萬の人出を見た。火神廟から海王村公園、南新華街一帶にかけて大きなアンペラ小屋が幾十となく出來て、寶石古本書畫など處せましと並べてあり、八大山人、石濤、南田、李鴻章、曹國藩何紹基、鄭孝胥、先日死んだ吳佩孚など色々あり、掘り出し物を探さうと鵜の目鷹の目の日本人も盛に押しかけた。「この模様は確に宋朝もの」と茶碗をひねくる者、紫禁城で見た乾隆帝の筆蹟、あれではないかと感じ入る者、「にせ物さ」とけなす者——こんな人達と骨董屋との怪奇珍妙な會話を紹介しよう。

「コレホンモノアル、ウソナイ」

「多兒錢」

「四十五塊錢」

「高いまけろ、十五塊錢」

「三十塊錢」

「十五塊錢」

「好、好、アタシ賠錢了（損をした）倆的發財了（貴方は得をした）」

客はきつぱり負けられて少し變な氣もするが、うまく負けさせたとも思ふ。賣つた相手は十圓から懷を溫めたに相違ない。初市の品物は九分九厘までにせ物と見てよい。だから寧ろ、一圓二圓で自家の好みのものを買ふのが、だまされた後味もなくてよからう。この初市は今から十二、三年前、張宗昌が女の買物の便を慮つて十日間の市を十五日に延した頃が最も盛んで、當時の賣上げは百萬圓を越えた。今年の賣上げは、せいぜい四五十萬と云はれてゐる。



北京ごよみ

四月



八日

▽**蟠桃宮開廟**・外三區東便門外護城河の南にあり、開廟五日間。この廟は普通の娘々と違つて總元締ともいふべき王母娘々を祀る。時節は好し城內外の老若男女打連れて詣る。

▽**潭柘寺開廟**・渾河石景山の西にあり、開廟十五日間。周圍を連山に圍まれて風景佳し。境內に大銀杏あり俗に帝王樹（一帝の代る毎に一枝を生ずると謂はれた）と云ふ。高さ十餘丈。この間香火盛大。

二十二日（舊三月十五日より二十八日迄）

▽**東嶽廟開廟**・朝陽門外にあり東嶽大帝卽ち泰山の神を祀る。二十八日はこの御本尊の誕生日で香會といつて隊を組んで賑かに神を迎へるこの廟は規模も大きく神様のデパートの

の代表的廟として一見の價値あり。人間萬事の願を受けられる。

二十五日（舊三月十八日）

▽**天台山香火**・西郊磨石口にあり、開廟一日。ここの魔王は有名、また順治帝の木乃伊がある。

☆　☆

〔雜　事〕

▽**清明節**・今年は新曆四月五日になつてゐるが（舊曆でいふと春分から十五日目で年によつて一定せず）恰度植樹に好適の時節で、祭祀を兼ねて植樹の行事があるので植樹節ともいふ。去年は臨時政府委員長王克敏氏以下要人一同天壇に行つて行はれた。

この日民家では豌豆黃を食ひ、一般に墓掃除をして燒活して祖先を祀るこの墓詣に柳の枝を編んで頭に冠り女は髮にさす。（燒活といふのは着換への着物など紙で作つたのを亡者に送る意味で燒く）

この前日は寒食節といつて、一日中火を使はず冷い物を食べる。その傳說に曰く、

春秋時代のこと、晉の文公は靑年時代に志を得ず亡命十九年の不遇にあつたが、最後に秦の穆公の協力で

この間文公の臣介子推は絕えず犬馬の勞をとつて功績大であつたが、文公は出世したら彼の手柄を忘れた。介子推は悲しんで母と共に緜山の山中に隱棲した。文公はやがてこれを知り後悔して彼が行方を探したが分らず遂に山に火を放ち彼の出て來るのを待つことにした。ところが介子推は燒死した。後世の人彼を哀んで命日として火の氣を絕つやうになつた。植樹もこの傳說に因んで文公に燒かれた山林を復活して介子推の住居を作る意味だと謂ふ。

當日の食物は前日か未明に作つておく。

尙淸明には出城踏靑と云つてピクニックに出る慣があるが、特にこの日と限らずこの時分は好時節だから若い男女の出步く者が多い。

▽**季節の食物**に黃花魚、白骨魚、大頭魚（海鯽魚）、藤蘿花糕、玫瑰花糕牡丹花糕、玉蘭花糕（花糕はそれぞれの花を採り香をつけた菓子）

淸明の頃天壇の龍鬚菜を採つて喰べる、さつぱりして美味いさうだから試食してみるのも面白からう。

この時分から氷を賣出す。近年アイスケーキを賣る者が殖えた。

つて油で炒るか湯を通して豆腐と拌ぜて食べるとなかなか佳い。常用すれば長生すると謂ふ。

▽**花事**・この月桃の花咲き柳絮飛ぶ。支那で柳の美しさは又格別で北京城內郊外共に風趣に富む。

韋公寺、慈仁寺の海棠は見事である牡丹の花が盛る。中央公園に遊ぶ者文人墨客、老若男女漸く多い。この月に葫蘆（瓢簞）の種を蒔く。これは鑑賞用にもなり、その實は廣く手藝品に加工されて市場に出る。街頭春色愈々酣に北京娘の艷姿旅人の眼を樂します。

表紙寫眞は漢人花嫁の髮飾

昭和十五年三月十五日印刷納本
昭和十五年四月一日發行

四月號
（每月一回一日發行）

編輯者　北京・華北交通株式會社 資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社　君島潔
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番
電話九段(33)三一四一・三三四四・一五四五番

一冊定價　二十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

廣告取扱
一手取扱所　大阪市西區京町堀上通一丁目二五　一新社
電話土佐堀九三九

觀あり西側門外の白雲觀と共に道敎

晉に歸り盟主になることが出來た。

枸杞頭は苦味あり、初生の小芽を採

禁無斷轉載・北支軍檢閱濟

Munaval

-NISSEN-

寄生性・瘙痒性 皮膚病治療劑

ムナバール「日染」



ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して強力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。

一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。

一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

【適應症】

疥癬・頑癬・濕疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性皮膚諸疾患。

【包裝】

一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

NISSEN

製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元 株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十五年三月十五日印刷納本 昭和十五年四月一日發行（毎月一回一日發行）第十號

定價 三十錢